ノ輸出又ハ輸入

十八　外國ニ在ル財産ニシテ第一號、第十二號又ハ第十三號ニ揭ゲザルモノノ取得又ハ處分

第二條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得

第三條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ揭グル財産ニ關シ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

一　外國通貨又ハ外國爲替

二　外國通貨ヲ以テ表示スル證劵若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

三　外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ揭ゲザルモノ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ政府之ヲ定ム

第四條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國ヘノ送金、外國ヨリノ送金ノ受領其ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決濟又ハ外國ヨリ外國ヘノ送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決濟ニ關シ其ノ方法、條件其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五條　政府ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ、帳簿書類ノ備付ヲ命ジ、帳簿書類ノ記載方ヲ指定シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

關稅法第八十四條乃至第九十三條ノ規定ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ付之ヲ準用ス但シ同法ニ定ムル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事務ノ一部ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシメタル場合ニ於テ當該事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第七條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ收得シ若ハ輸出セントシタル者又ハ通貨、外國通貨若ハ證劵ヲ輸出若ハ輸入セントシタル者亦前項ニ同ジ

第八條　第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル外國通貨其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ爲スベキ旨ノ政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該外國通貨其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第九條　第四條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第五條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛僞ノ報告ヲ爲シ、帳簿書類ノ備付ヲ爲サズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ、之ニ虛僞ノ記載ヲ爲シ、之ノ記載方ノ指定ニ從ハズ、業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ檢査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條　本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第七條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第七條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條　本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第十四條　當該官吏、外國爲替管理委員會ノ會長委員幹事若ハ第六條ニ規定スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　第三條ノ財産ノ賣却價額其ノ他本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲爲替管理委員會ヲ置ク

外國爲替管理委員會ノ組織權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〇陸軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律

（昭和十六年四月三十日公布
即日施行）

法律第八十四號

陸軍軍人軍屬違警罪處分例中左ノ通改正ス
「陸軍軍人軍屬違警罪處分例」ノ「陸軍軍人軍屬等犯罪即決法」ニ改ム
第一條中「陸軍軍人軍屬」ヲ「陸軍軍法會議法第一條ニ記載シタル者」ニ、「違警罪ハ」ヲ「拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪ハ」ニ、「憲兵部」ヲ「憲兵隊長（分隊長及分遣隊長ヲ含ム以下之ニ同シ）」ニ改メ「爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ」ヲ削ル
第二條中「憲兵部若クハ警察署ニ於テ」ヲ「憲兵隊長」ニ、「長官若クハ隊長」ヲ「部隊ノ長」ニ改ム
第三條中「軍法會議」ヲ「管轄軍法會議」ニ改メ「其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ」ヲ削ル
第四條中「憲兵部若クハ警察署」ヲ「憲兵隊長」ニ改ム
第五條中「憲兵部若クハ警察署ニ於テ」ヲ「憲兵隊長」ニ、「二十四時內」ヲ「二十四時間內」ニ、「一切ノ書類」ヲ「書類及證據物」ニ、「所管司令官」ヲ「檢察官」ニ改ム
第六條乃至第八條ヲ削ル

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

明治十九年五月二十四日公布　勅令第四十四號陸軍軍人軍屬違警罪處分例抄錄

第一條　陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ
第二條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知ス可シ
第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ
第四條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限內ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ
第五條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時內ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致ス可シ
第六條　軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ムルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得
第七條　即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得
第八條　軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○海軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律

（昭和十六年四月三十日公布　即日施行）

法律第八十五號

海軍軍人軍屬違警罪處分例中左ノ通改正ス
「海軍軍人軍屬違警罪處分例」ヲ「海軍軍人軍屬等犯罪即決法」ニ改ム
第一條中「海軍軍人軍屬」ヲ「海軍軍法會議法第一條ニ記載シタル者」ニ、「違警罪ハ」ヲ「拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪ハ」ニ、「憲兵部」ヲ「憲兵隊長（分隊長及分遣隊長ヲ含ム以下之ニ同シ）」ニ改メ「爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ」ヲ削ル
第二條中「憲兵部若クハ警察署ニ於テ」ヲ「憲兵隊長」ニ、「長官若クハ艦船團長」ヲ「部隊ノ長」ニ改ム
第三條中「海軍常設軍法會議」ヲ「管轄軍法會議」ニ改メ「其裁判管轄ハ海軍治罪法ニ從フ」ヲ削ル
第四條中「憲兵部若クハ警察署」ヲ「憲兵隊長」ニ改ム
第五條中「憲兵部若クハ警察署ニ於テ」ヲ「憲兵隊長」ニ、「二十四時內」ヲ「二十四時間內」ニ、「一切ノ書類」ヲ「書類及證據物」ニ、「長官」ヲ「檢察官」ニ改ム
第六條乃至第八條ヲ削ル

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

明治二十二年十月二日公布　法律第二十五號海軍軍人軍屬違警罪處分例抄錄

第一條　海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ
第二條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其所屬ノ長官若クハ艦船團長ニ通知ス可シ
第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ海軍常設軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ海軍治罪法ニ從フ
第四條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限內ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ
第五條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時內ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ長官ニ送致ス可シ
第六條　海軍軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ムルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得
第七條　即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署海軍軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ艦船團長又ハ被告人所在ノ地ノ軍法會議主理ニ

其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條　海軍軍法會議ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○重要機械製造事業法

（昭和十六年五月二日公布 附則參照）

法律第八十六號

第一條　本法ニ於テ重要機械ト稱スルハ勅令ヲ以テ定ムル機械、機械部分品（部分品ノ半成品ヲ含ム）及器具ヲ謂ヒ重要機械製造事業ト稱スルハ重要機械ノ製造又ハ組立ヲ爲ス事業ヲ謂フ

第二條　重要機械製造事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定ムル重要機械製造事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本法ニ定ムルモノノ外前項ノ許可ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　前條ノ許可ヲ受ケタル者（重要機械製造事業者）ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

重要機械製造事業者前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ前條ノ許可ハ其ノ効力ヲ失フ

第四條　勅令ヲ以テ指定スル重要機械製造事業（指定重要機械製造事業）ヲ營ム重要機械製造事業者政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以內ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム指定重要機械製造事業ニ付所得税又ハ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム指定重要機械製造事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ重要機械製造事業者其ノ設備完成前其ノ一部ヲ以テ指定重要機械製造事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得税又ハ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス但シ同項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得税又ハ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除セラレタル重要機械製造事業者ニハ同條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課税スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　第四條ノ規定ニ依リ所得税又ハ所得ニ對スル法人税及營業税ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ同條ノ規定ニ依ル所得税又ハ所得ニ對スル法人税及營業税免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第七條　指定重要機械製造事業ヲ營ム重要機械製造事業者其ノ事業ノ爲必要ナル機械又ハ器具ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除ス

第八條　重要機械製造事業者ノ營ム重要機械製造事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第九條　重要機械製造事業者タル株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法第二百九十七條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財産額ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　重要機械又ハ其ノ部分品ノ輸入ガ重要機械製造事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ重要機械又ハ其ノ部分品ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第十一條　重要機械又ハ其ノ部分品ノ輸入ニ因リ重要機械ノ市價ノ低落ヲ來シ重要機械製造事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關税調査委員會ノ議ヲ經テ期間ヲ定メ重要機械又ハ其ノ部分品ニ對シ關税定率法別表輸入税表ニ定ムル輸入税ノ外其ノ物品ノ價格ノ五割ニ相當スル金額以下ノ輸入税ヲ課スルコトヲ得

第十二條　重要機械製造事業者其ノ設備ヲ増設シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

第十三條　重要機械製造事業者其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

重要機械製造事業者タル法人ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十四條　重要機械製造事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ屆出デ又ハ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十五條　重要機械製造事業者ト他ノ重要機械製造事業者又ハ第二條第一項但書ノ規定ニ該當スル重要機械製造事業ヲ營ム者トノ間ニ重要機械ノ製造又ハ販賣ニ關シ命令ノ定ムル協定成立シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ政府ニ屆出ヅベシ其ノ變更又ハ廢止アリタルトキ亦同ジ

政府公益上必要アリト認ムルトキハ前項ノ協定ノ變更又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得

第十六條　政府ハ重要機械製造事業者ニ對シ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ重要機械製造事業者ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ重要機械製造事業者ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十七條　政府公益上必要アリト認ムルトキハ重要機械製造事業者ニ對シ重要機械ノ販賣價格若ハ販賣條件ノ變更ヲ命ジ又ハ重要機械ノ需要供給ノ調節スル爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十八條　政府重要機械製造事業ノ發達ヲ圖ル爲又ハ軍事上特ニ必要アリト認ムルトキハ重要機械製造事業者ニ對シ重要機械又ハ其ノ部分品ニ付研究、試作其ノ他製造ニ關スル命令ヲ爲シ又ハ設備ノ擴張、改良、變更若ハ工場ノ移轉ヲ命ズルコトヲ得

第十九條　政府軍事上必要アリト認ムルトキハ重要機械製造事業者ニ對シ特殊設備ノ施設其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十條　前二條ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條　政府重要機械製造事業ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ重要機械製造事業者ニ對シ重要機械ノ製造若ハ販賣ニ關シ協定ノ設定ヲ命ジ又ハ協定ノ加盟者若ハ其ノ協定ニ加盟セザル重要機械製造事業者ニ對シ其ノ協定ノ全部若ハ一部ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十二條　政府重要機械製造事業ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ重要機械製造事業者ニ對シ重要機械ノ製造ニ關スル技術又ハ研究ニ付他ノ重要機械製造事業者ニ對スル協力ヲ爲シ又ハ他ノ重要機械製造事業者ヨリ協力ヲ受クルコトヲ命ズルコトヲ得

第二十三條　政府重要機械製造事業ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ重要機械ノ製造ニ必要ナル見本機械若ハ圖面ヲ所有シ若ハ所持スル者ニ對シ重要機械製造事業者ニ之ヲ利用セシメ又ハ重要機械製造事業者ニ對シ之ヲ利用スルコトヲ命ズルコトヲ得但シ特許又ハ登錄實用新案ニ係ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條　前二條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ費用ノ負擔又ハ對價ニ付關係者間ニ於テ協議ヲ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ政府之ヲ裁定ス

第二十五條　政府重要機械製造事業ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ重要機械製造事業者ニ對シ他ノ重要機械製造事業者ニ事業ヲ讓渡シ又ハ他ノ重要機械製造事業者ヨリ事業ヲ讓受クベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ讓渡ノ條件ニ付關係者間ニ於テ協議ヲ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ政府之ヲ裁定ス

第二十六條　政府重要機械製造事業ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ重要機械ノ製造ニ必要ナル機械又ハ器具ヲ所有シ又ハ所持スル者ニ對シ其ノ讓渡又ハ賃貸ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ重要機械製造事業者ト協議ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ關係者間ニ於テ協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　重要機械製造事業者ハ前條ノ規定ニ依リ讓受ケ又ハ借受ケタル機械又ハ器具ヲ政府ノ指定スル重要機械ノ製造以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條　第二十四條若ハ第二十五條ノ規定ニ依ル裁定又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル決定アリタル場合ニ於テ費用ノ負擔、對價、讓渡價格又ハ賃貸料ニ付不服アル者ハ其ノ裁定又ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日（裁定又ハ決定ノ通知ヲ受ケザル者ニ付テハ其ノ公示ノ日）ヨリ三十日以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十九條　第二十二條乃至前條ニ定ムルモノノ外裁定及決定、重要機械ノ製造ニ關スル技術又ハ研究ノ協力、重要機械ノ製造ニ必要ナル見本機械又ハ圖面ノ利用、重要機械製造事業者間ノ事業ノ讓渡又ハ讓受竝ニ重要機械ノ製造ニ必要ナル機械又ハ機具ノ讓渡又ハ賃貸ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條　政府重要機械製造事業ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ重要機械製造事業者ニ對シ其ノ供給ヲ受クル部分品ノ種類若ハ數量又ハ供給者ニ付必要ナル命令ヲ

爲スコトヲ得

第三十一條　政府ハ重要機械製造事業者ニ對シ重要機械ノ製造ニ政府ノ指定スル設計、原料若ハ材料又ハ部分品若ハ附屬品ヲ使用スベキコトヲ命ジ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第三十二第　政府ハ重要機械又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムルコトヲ得

重要機械製造事業者ハ前項ノ規定ニ依リ規格ノ定マリタルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外規格ニ適合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造シ又ハ重要機械ノ製造ニ使用スルコトヲ得ズ

第三十三條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ重要機械製造事業者ニ對シ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ試驗若ハ研究ノ目的其ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル爲特別ノ積立金ノ積立ヲ命ズルコトヲ得

第三十四條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ重要機械ノ試驗、研究又ハ試作ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第三十五條　重要機械製造事業者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ法人ノ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　第十五條乃至第十七條、第三十一條、第三十二條及前條ノ規定ハ第二條第一項但書ノ規定ニ該當スル重要機械製造事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス

第二十五條、第二十八條及第二十九條ノ規定ハ第二條第一項但書ノ規定ニ該當スル重要機械製造事業ヲ營ム者ト他ノ重要機械製造事業者又ハ第二條第一項但書ノ規定ニ該當スル重要機械製造事業ヲ營ム者トノ間ニ於ケル事業ノ讓渡又ハ讓受ニ之ヲ準用ス

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ重要機械製造事業ヲ營ミタル者

二　第十條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ重要機械又ハ其ノ部分品ノ輸入ヲ爲シタル者

三　附則第二項又ハ第三項ニ揭グル者ニシテ同項ノ規定ニ依ル範圍ヲ超エテ重要機械製造事業ヲ營ミタルモノ

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十二條ノ規定ニ違反シテ設備ヲ增設シ又ハ變更シタル者

二　第十三條第一項ノ規定ニ違反シテ事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタル者

三　第十四條第一項ノ規定ニ違反シテ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シ又ハ事業計畫ノ屆出ヲ爲サズ若ハ屆出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

四　第十四條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シテ事業計畫ヲ實施シタル者

五　第十五條第二項（第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）、第十七條（第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）、第十八條、第十九條、第二十一條乃至第二十三條又ハ第三十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

六　第二十七條ノ規定ニ違反シテ機械又ハ器具ヲ使用シタル者

七　第三十一條（第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル命令又ハ制限ニ違反シタル者

八　第三十二條第二項（第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違反シテ規格ニ適合セザルモノヲ製造シ又ハ重要機械ノ製造ニ使用シタル者

第三十九條　第十六條第二項（第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十六條第一項（第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

二　第十六條第三項（第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者

第四十一條　營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第三十七條乃至第三十九條又ハ前條第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十二條　第三十七條乃至第三十九條及第四十條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　第十五條第一項（第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違反シテ命令ノ定ムル協定又ハ其ノ變更若ハ廢止ニ付屆出ヲ爲サザル者

二　第三十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シテ積立ヲ爲サザル者

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ重要機

械製造事業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ勅令ヲ以テ定ムル期間ヲ限リ同條ノ規定ニ拘ラズ本法公布ノ日以前ニ於テ營メル事業ノ範圍（本法施行ノ際現ニ建設工事中ノ設備アル事業ニ付テハ當該設備ニ係ル事業ノ範圍ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ含ム）內ニ於テ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ重要機械製造事業ヲ營ム爲本法施行ノ際現ニ其ノ設備ノ建設工事中ニ在ル者又ハ其ノ設備ヲ承繼シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ勅令ヲ以テ定ムル期間ヲ限リ同條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ定ムル範圍內ニ於テ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ重要機械製造事業ヲ營ム者ハ第二條ノ許可ヲ受クル迄之ヲ同條第一項但書ノ規定ニ該當スル重要機械製造事業ヲ營ム者ト看做ス

○昭和十二年法律第五十七號（鐵ノ輸入稅免除ニ關スル件）改正法律（未公布）

法律第八十七號

關稅定率法別表輸入稅表第四十二號ニ揭グル鐵（別號ニ揭ゲタル特鋼ヲ除ク）ノ輸入稅ハ當分ノ內之ヲ免除ス

政府特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ニ依リ物品ヲ指定シ前項ノ規定ノ適用ニ付除外ヲ爲スコトヲ得

施行令

施行令

目次

○勅令第三百二十六號　兵役法施行令中改正ノ件……二〇一

○勅令第三百三十三號　大正十年勅令第百三號陸軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件中改正ノ件……二〇七

○勅令第三百三十五號　大正十一年勅令第百四號海軍軍法會議法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件中改正ノ件……二〇七

○勅令第二百二十四號　商工會議所法施行令ノ臨時特例ニ關スル件……二〇八

○省令　昭和十三年法律第三號施行ニ關スル件……二〇九

○勅令第三百二十四號　昭和十六年法律第二十八號第一項ノ規定ニ依リ關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ所屬セシムル經費及收入ヲ定ムルノ件……二一〇

○勅令第三百二號　昭和十五年法律第七十七號昭和十三年法律第二十三號中改正法律施行期日ノ件……二一〇

○勅令第三百三號　昭和十五年勅令第百二十七號昭和十三年法律第二十三號第一條ノ規定ニ依リ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ操入ルベキ金額ヲ定ムル改正ノ件……二一〇

○勅令第二百六十六號　委員會等ノ整理等ニ關スル法律ノ一部施行期日ノ件……二一一

○勅令第三百六號　昭和十六年第三十五號委員會等ノ整理等ニ關スル法律ノ一部施行期日ノ件……二一一

○勅令第四百一號　昭和十六年法律第三十五號委員會等ノ整理等ニ關スル法律ノ一部施行期日ノ件……二一三

○勅令第四百五十九號　昭和十六年法律第三十五號委員會等ノ整理等ニ關スル法律ノ一部施行期日ノ件……二一三

○勅令第五百二十二號　同上……二一四

○勅令第四百六十一號　農工銀行法第七條ノ現定ニ依リ同法第六條ノ二ノ貸付制限額ヲ超過シ得ル地方ヲ指定スルノ件……二一四

○商工省令第二十一號　輸出補償法施行規則中改正……二一五

○勅令第三百五號　昭和十六年法律第四十四號輸出補償法施行期日ノ件……二二〇

○勅令第五百四十二號　國防保案法施行令……二二〇

○勅令第四百九十六號　帝都高速度交通營團法施行期日ノ件……二二一

○勅令第四百九十七號　帝都高速度交通營團法施行令……二二一

○勅令第四百八十四號　昭和十六年法律第五十三號發送電株式會社法中改正法律施行期日ノ件……二二[illegible]

○勅令第四百八十五號　電力管理法施行令中改正ノ件……二二八
○勅令第三百九十九號　住宅營團法施行期日ノ件……二二八
○勅令第二百一號　借地法、借家法及借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件……二三三
○勅令第三百四號　昭和十六年法律第六十二號陪審法中改正法律施行期日ノ件……二三三
○勅令第四百九十四號　農地開發法ノ一部施行期日ノ件……二三四
○勅令第四百九十五號　農地開發法施行令……二三四
○勅令第四百六十二號　蠶絲業統制法ノ一部施行期日ノ件……二三九
○勅令第四百七十一號　蠶絲業統制法施行令……二三九
○勅令第四百八十一號　蠶絲委員會官制……二四〇
○勅令第四百十一號　昭和十六年法律第六十九號大正二年法律第九號中改正法律施行期日ノ件……二四一
○勅令第四百十四號　燃料局官制中改正ノ件……二四二
○勅令第四百十五號　燃料研究所官制中改正ノ件……二四二
○勅令第四百五十七號　船舶保護法施行期日ノ件……二四二
○勅令第四百五十八號　關東州及南洋群島船舶保護令……二四二
○勅令第二百九十二號　臨時利得稅法施行規則中改正ノ件……二四二
○勅令第二百九十七號　關東州臨時利得稅令中改正ノ件……二四三
○勅令第三百號　樺太臨時利得稅令中改正ノ件……二四九
○勅令第四百十號　相續稅法施行規則中改正ノ件……二四九
○勅令第三百六十三號　無盡業法第二十一條ノ八ノ規定ニ依ル登記ニ關スル件……二五〇
○勅令第三百六十四號　昭和六年勅令第百五十九號無盡業法第四十二條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ヲ地方長官ヲシテ行ハシムルノ改正ノ件……二五〇
○勅令第四百七十三號　外國爲替管理委員會官制中改正ノ件……二五一
○勅令第四百八十三號　外國爲替管理法第二項但書ノ規定ニ依リ關稅法ニ定ムル職務ヲ行フ官吏ヲ定ムルノ件……二五二
○海軍省令第八號　軍機保護法施行期則中改正……二五三
○商工省令第十七號　昭和十六年法律第七十號附則第二項及第三項ノ規定ニ依ル事業ノ範圍ニ關スル件……二五三
○勅令第五百五十三號　昭和十六年法律第五十四號治安維持法改正法律施行期日ノ件……二五四
○勅令第五百五十五號　關東州治安維持令……二五四
○勅令第五百八十三號　昭和十五年法律第百二號鑛業法中改正法律ノ一部施行期日ノ件……二五四
○勅令第五百八十四號　鑛業登錄令中改正ノ件……二五四
○勅令第五百八十五號　昭和十五年法律第百二號附則第十條ノ規定ニ依リ試掘權ノ存續期間ヲ延長スル場合ノ登錄ニ關スル件……二五五
○勅令第百八十六號　昭和十五年法律第百三號砂鑛法中改正法律施行期日ノ件……二五六

施行令

○兵役法施行令中改正ノ件

（昭和十六年三月二十九日公布　同十六年四月一日ヨリ施行附則參照）

勅令第三百二十六號

兵役法施行令中左ノ通改正ス

目次中「第十款　樺太ニ關スル特例」ヲ「第十款　樺太ニ關スル特例　第十一款　朝鮮關東州及滿洲國ニ關スル特例」ニ改ム

第八條第一項中「聯隊區司令官」ノ下ニ「又ハ陸軍兵事部長」ヲ

同條第二項中「聯隊區」ノ下ニ「又ハ「兵事區」ヲ加フ

第二十一條第二項及第三項中「、豫備兵及後備兵」ヲ「及豫備兵」ニ改ム

第三十二條中「小學校」ヲ「國民學校」ニ改ム

第三十七條中「後備兵」ヲ「豫備兵」ニ、「後備兵役」ヲ「豫備役」ニ改ム

第三十八條第一項第二號及第三號ヲ左ノ如ク改メ同條第二項中「、豫備兵若ハ後備兵」ヲ「若ハ豫備兵」ニ改ム

二　現役兵ニシテ現役及豫備役ニ又ハ現役及補充兵役ニ堪ヘザル者ハ之ヲ第一國民兵役ニ服セシム

三　豫備兵又ハ補充兵ニシテ其ノ役ニ堪ヘザル者ハ之ヲ第一國民兵役ニ服セシム

第四十一條第一號中「七年四月」ヲ「十七年四月」ニ、「八年」ヲ「十五年」ニ改ム

第四十四條第一項中「師管」ヲ「軍管區、師管」ニ改ム

第四十五條中「師管」ヲ「軍管區」ニ改ム

第四十六條中「總理徵兵官、」ノ下ニ「軍管區徵兵官、」ヲ加フ

第四十七條ノ二　軍管區徵兵官ハ軍司令官ヲ以テ之ニ充テ軍管區內ノ師團長ノ行フ徵兵ノ事務ヲ統轄ス

第五十二條第一項中「師管徵兵醫官」ヲ「軍管區徵兵醫官、師管徵兵醫官」ニ改メ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

軍管區徵兵醫官ハ軍司令官ニ屬シ軍管區內ノ身體檢査ニ關スル事務ヲ管掌ス

第五十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

軍管區徵兵醫官ハ軍軍醫部長ヲ以テ之ニ充ツ

師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充ツ

第五十九條第一項中「師管」ヲ「軍管區」ニ改ム

第六十條中「師團長ハ」ヲ「軍司令官ハ軍管區ニ配賦セラレタル員數ヲ各師管ニ、師團長ハ」ニ改ム

第七十五條第一項中「小學校」ヲ「國民學校」ニ改ム

第八十條中「澳門若ハ」ヲ「澳門又ハ」ニ改メ「朝鮮、臺灣、關東州若ハ滿洲國ニ在留スル者ニシテ徵兵檢査ヲ受クベキ者又ハ」ヲ削ル

第九十條中「及後備兵役」ヲ削ル

第百條第一號中「尋常小學校卒業」ヲ「國民學校初等科修了」ニ

改ム

第百十一條ノ次ニ左ノ一款ヲ加フ

第十一款　朝鮮、臺灣、關東州及滿洲國ニ關スル特例

第百十一條ノ二　朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ在留スル者ニ對シテハ其ノ本籍ニ拘ラズ在留地所在ノ徵募區ニ於テ徵兵檢査ヲ行フ但シ身體檢査ニ限リ其ノ他ノ地ニ於テ之ヲ受ケシムルコトヲ得

前項ノ者ニシテ現役兵又ハ第一補充兵ニ徵集セラルベキ者ハ當該徵兵區及徵募區ノ配賦要員ニ充テ之ヲ徵集ス

前項ノ規定ニ依ル配賦ハ徵兵區又ハ徵募區ニ在留シ徵兵檢査ヲ受クベキ者ノ見込數ヲ基準トシテ之ヲ行フ

第一項ノ規定ニ依リ徵兵檢査ヲ受ケタル者ニ關スル徵兵終決處分ハ在留地所在ノ徵募區ヲ管轄スル陸軍兵事部長之ヲ行フ

第百十一條ノ三　徵兵區ハ朝鮮ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ之ヲ軍管區、師管及兵事區トシ臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ之ヲ軍管區及兵事區トス

第百十一條ノ四　徵兵官ハ朝鮮ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ之ヲ總理徵兵官、軍管區徵兵官、師管徵兵官、兵事區徵兵官及兵事區聯合徵兵官トシ臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ之ヲ總理徵兵官、軍管區徵兵官、兵事區徵兵官及兵事區聯合徵兵官トス

第百十一條ノ五　總理徵兵官ハ朝鮮及臺灣ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ陸軍大臣及拓務大臣、關東州ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ陸軍大臣及内閣總理大臣、滿洲國ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ陸軍大臣及外務大臣ヲ以テ之ニ充テ各當該地域ニ於ケル徵兵ノ事務ヲ統轄ス

第百十一條ノ六　朝鮮ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ軍管區徵兵官ハ朝鮮軍司令官及朝鮮總督ヲ以テ之ニ充テ軍司令官ヲ首座トシ軍管區內ノ師管徵兵官ノ行フ徵兵ノ事務ヲ統轄ス

前項ノ外軍管區徵兵官ハ臺灣ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ臺灣軍司令官及臺灣總督、關東州及滿洲國ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ關東軍司令官及滿洲國駐剳特命全權大使ヲ以テ之ニ充テ軍司令官ヲ首座トシ軍管區ニ於ケル徵兵ノ事務ヲ統轄ス

第百十一條ノ七　兵事區徵兵官ハ朝鮮ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ陸軍兵事部長及道ノ兵事ニ關スル事務ヲ分掌スル警視、臺灣ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ陸軍兵事部長及澎湖廳長、郡守又ハ市長、關東州ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ陸軍兵事部長及關東州廳ノ兵事ニ關スル事務ヲ分掌スル事務官又ハ警視、滿洲國ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ陸軍兵事部長及大使ノ指定スル大使館兵事員ヲ以テ之ニ充テ陸軍兵事部長ヲ首座トス

本章中兵事官ニ關スル規定ハ前項ノ警視、廳長、郡守、事務官及大使館兵事員ニ之ヲ適用ス

第百十一條ノ八　徵兵醫官ハ朝鮮ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ之ヲ軍管區徵兵醫官、師管徵兵醫官、兵事區徵兵醫官及兵事區徵兵副醫官トシ臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ於ケル徵兵事務ニ關シテハ之ヲ軍管區徵兵醫官、兵事區徵兵醫官及兵事區徵兵副醫官トス

第百十一條ノ九　朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ在リテハ本章中聯隊區トアルハ兵事區、聯隊區司令官トアルハ陸軍兵事部長、聯隊區徵兵官トアルハ兵事區徵兵官、聯隊區聯合徵兵官トアルハ兵事區聯合徵兵官、聯隊區徵兵醫官トアルハ兵事區徵兵醫官、聯隊區徵兵副醫官トアルハ兵事區徵兵副醫官、聯隊區徵兵署トアルハ兵事區徵兵署、聯隊區整理徵兵署トアルハ兵事區整理徵兵署、聯隊區聯合整理徵兵署トアルハ兵事區聯合整理徵兵署トス

臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ在リテハ本章中師團長トアルハ軍管區徵兵官タル軍司令官トシ師團軍醫部長トアルハ軍管區徵兵醫官タル軍軍醫部長トス

本章中地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、關東州ニ在リテハ關東州廳長官、滿洲國ニ在リテハ兵事區徵兵官タル大使館兵事員トス

本章中道府縣又ハ府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、關東州ニ在リテハ關東州、滿洲國ニ在リテハ大使ノ定ムル區域トス

第百十一條ノ十　本章中町村長ニ關スル規定ハ朝鮮ニ在リテハ警察署長、臺灣ニ在リテハ澎湖廳長又ハ郡守、關東州ニ在リテハ警察署長、滿洲國ニ在リテハ大使館兵事員（兵事區徵兵官タル者ヲ除ク）ニ之ヲ適用ス

第五十八條第三項ノ規定中當該町村ノ吏員トアルハ前項ニ揭グル者ノ部下ノ職員トス

第七十七條第一項中町村ニ關スル規定ノ朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ於ケル適用ニ關シテハ陸軍大臣之ヲ定ム

本章中市又ハ市長ニ關スル規定ハ關東州ノ市又ハ市長ニ之ヲ適用セズ

第百十一條ノ十一　本款ニ規定スルモノヲ除クノ外朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ於ケル徵兵事務ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第百二十七條第一項中「後備兵役」ヲ削ル

第百四十一條第一項中「總理徵兵官又ハ師管徵兵官」ヲ「上級徵兵官」ニ、「但シ師管徵兵官」ヲ「但シ軍管區徵兵官又ハ師管徵兵官」ニ改メ同條第二項中「聯隊區徵兵官」ノ下ニ「又ハ兵事區徵兵官」ヲ、同條第三項中「聯隊區司令官」ノ下ニ「又ハ陸軍兵事部長」ヲ加フ

第百四十二條中「聯隊區司令官」ノ下ニ「若ハ陸軍兵事部長」ヲ加フ

第百四十三條第一項中「市尹」ヲ「市長」ニ改メ同條第三項ヲ削ル

第百四十三條ノ二　大使館兵事員ニ關スル規程ハ大使關東軍

司令官又ハ海軍大臣ノ指定スル鎭守府司令長官ト協議シテ之ヲ定ム

第百四十四條第三項中「內務大臣」ヲ「內閣總理大臣、外務大臣、內務大臣」ニ改ム

第百四十五條　徵兵事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ陸軍兵事部長、師團長及軍司令官ハ管內徵兵事務ノ狀況ヲ直接上級ノ徵兵官タル師團長、軍司令官又ハ陸軍大臣ニ報告シ陸軍大臣ハ徵兵事務全般ノ狀況ヲ上奏スベシ

附　則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第八條ノ改正規定、第三章ニ係ル改正規定（第七十五條、第九十條及第百條ノ改正規定ヲ除ク）竝ニ第百四十一條、第百四十二條、第百四十四條及第百四十五條ノ改正規定ハ昭和十六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和二年十一月三十日公布勅令第三百三十號兵役法施行令抄錄

第七條第一項

現役兵ハ年齡十七年以上徵兵適齡未滿ノ者ニシテ現役兵トシテ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年在營スルコトヲ志願スル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第八條　前條第一項ノ規定ニ依リ現役兵タランコトヲ志願シタル者ノ採否ハ聯隊區司令官之ヲ決ス

前條第一項ノ規定ニ依リ現役兵ニ採用シタル者ハ之ヲ採用シタル聯隊區ノ其ノ年ニ於ケル現役兵ノ配賦要員ニ充ツ

第二十一條第二項及三項

陸軍ノ歸休兵、豫備兵及後備兵竝ニ補充兵ハ之ヲ本籍所在ノ聯隊區ノ兵籍ニ編入シ當該聯隊區司令官ノ管轄ニ屬セシム但シ戶籍法ノ適用ヲ受ケザル者ノ兵籍ニ關シテハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

海軍ノ現役兵、豫備兵及後備兵ハ其ノ本籍地ヲ管轄スル鎭守府ノ兵籍ニ編入ス但シ現役兵ニ付テハ海軍大臣ハ必要ニ應ジ其ノ兵籍ノ所在ヲ變更スルコトヲ得

第三十二條　兵役法第十二條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ハ主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日（海軍現役兵ニシテ師範學校ヲ卒業シ小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ有スル者ニ在リテハ概ネ一年四十日）トス

第三十六條　兵役法第十九條ノ規定ニ依ル服役期間ノ延長及其ノ解止ニ關シテハ主務大臣臨時之ヲ定ム但シ航海中又ハ外國ニ於テ勤務中ナルトキノ海軍兵ノ服役期間ノ延長及其ノ解止ハ鎭守府司令長官之ヲ爲スコトヲ得

時機切迫シ主務大臣又ハ鎭守府司令長官ノ命ヲ待チ難キ場合ニ於テハ第百十八條第一項ニ揭グル者ハ其ノ部下ノ者ニ對シ必要ノ期間ヲ限リ服役期間ノ延長ヲ專行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ事實ヲ具シ速ニ主務大臣ニ報告スベシ

第三十七條　後備兵、補充兵又ハ國民兵ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集ヲ命セラレタル者應召ノ日ニ於テ後備兵役、補充兵役又ハ國民兵役ノ期間ヲ過グルニ至ルベキトキハ前條ニ規定スル主務大臣ノ命又ハ召集解除ノ命アル迄其ノ服役期間ヲ延長ス

第三十八條　兵役法第二十一條ノ規定ニ依リ轉役スル者ノ服スベキ兵役左ノ如シ

二　現役兵ニシテ現役、豫備役及後備兵役ニ又ハ現役及補充兵役ニ堪ヘザル者ハ之ヲ第一國民兵役ニ服セシム

三　豫備兵ニシテ豫備役及後備兵役ニ堪ヘザル者又ハ後備兵若ハ補充兵ニシテ其ノ役ニ堪ヘザル者ハ之ヲ第一國民兵役ニ服セシム

前項各號ノ規定ニ依リ陸軍ノ歸休兵、豫備兵若ハ後備兵又ハ補充兵ヲ轉役セシムルノ處分ハ召集ノ際若ハ部隊編入中又ハ陸海軍ノ病院ニ收容中ノ場合ニ限リ之ヲ行フ

第四十一條　兵役法第二十一條及本令第三十八條ノ規定ニ依リ轉役シタル者ノ服役期間左ノ如シ

一　現役ヲ免除シ豫備役ニ編入セラレタル者ノ豫備役期間ハ前ニ服役シタル期間ヲ通算シ陸軍ニ在リテハ七年四月、海軍ニ在リテハ八年ニ滿ツル日迄トス

第四十四條第一項

徵兵區ハ之ヲ師管及聯隊區トシ其ノ區域ハ陸軍管區表ノ定ムル所ニ依ル

第四十五條　師管內ニ在ル部隊ノ兵員ハ其ノ師管ヨリ之ヲ徵集スルヲ例トス

部隊ノ位置又ハ種類ニ依リ一箇乃至數箇ノ師管又ハ各師管ヨリ當該團隊ノ兵員ヲ徵集スルコトヲ得

海軍ノ兵員ハ各師管ヨリ之ヲ徵集ス

第四十六條　徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵官トス

第五十二條第一項

師管徵兵醫官、聯隊區徵兵醫官及聯隊區徵兵副醫官ハ每年徵兵事務執行中之ヲ置ク

第五十三條第一項

師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充ツ

聯隊區徵兵醫官ハ陸軍軍醫少佐又ハ陸軍軍醫大尉ノ內一人ヲ以テ之ニ充ツ

第五十九條第一項

每年徵集スル現役兵及第一補充兵ノ員數ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ各師管ニ配賦ス

第六十條　師團長ハ師管ニ配賦セラレタル員數ヲ各聯隊區ニ、聯隊區司令官ハ聯隊區ニ配賦セラレタル員數ヲ各徵募區ニ配賦ス

第七十五條第一項

徵兵檢查ニ於テ定ムベキ兵種ハ左ノ區分ニ依ルモノトス

但シ師範學校ヲ卒業シ小學校ノ敎職ニ就クノ資格ヲ有スル者ハ海軍兵ニ在リテハ之ヲ水兵トス

第八十條 朝鮮、臺灣、關東州若ハ滿洲國ニ在留スル者ニシテ徵兵檢査ヲ受クベキ者又ハ支那、香港、澳門若ハ沿海州其ノ他當該地壞ノ附近ニ在留スル者ニシテ徵集ヲ延期セラレザル者ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ本人ノ在留地附近ノ軍隊、地方廳、領事館（明治三十二年法律第七十號、第十九條ニ規定スル領事館ヲ謂フ以下之ニ同ジ）內又ハ各其ノ所在地ニ於テ身體檢査ヲ受クルコトヲ得

第九十條 聯隊區司令官ハ現役兵入營ノ際疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ常備兵役及後備兵役ニ堪ヘザル者ナルトキハ之ニ對シ徵集ヲ免除シ永久兵役ニ堪ヘザル者ナルトキハ之ニ對シ兵役ヲ免除ス但シ第七條ノ規定ニ依リ現役ヲ志願シタル者ニシテ之ニ該當スル者ニ付テハ陸軍大臣ハ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第百條 左ニ掲グル學校ニ在學スル者ニ對シテハ本人ノ願ニ基キ兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期ス

一 中學校、師範學校、實業學校（尋常小學校卒業ヲ入學程度トスル修業年限五年又ハ之ト同等以上ノモノニ限ル）、高等學校、大學令ニ依ル大學豫科、專門學校、高等師範學校、大學令ニ依ル大學學部、臨時敎員養成所實業學校敎育養成所及靑年學校敎育養成所研究科、選科等ノ別科ヲ除ク

第百二十七條第一項

兵役法第六十一條第一號ニ掲グル者ノ勤務演習召集又ハ簡閱點呼ノ免除ニ付テハ當該官廳豫メ其ノ者ノ本籍地、寄留地、役種、兵種、徵集年、豫備役後備兵役編入年、官等級氏名及理由ヲ具シ內閣總理大臣ノ認可ヲ受クベシ

但シ內閣總理大臣ノ指定シタル者ハ其ノ認可ヲ受ケタル者ト看做ス

第百四十一條 總理徵兵官又ハ師管徵兵官ハ下級徵兵官ノ處分ガ違法又ハ不當ナリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ取消シタル上更ニ處分ヲ命ズベシ但シ師管徵兵官ハ總理徵兵官ノ認可ヲ受クベシ

聯隊區徵兵官其ノ爲シタル處分ガ違法又ハ不當ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ取消シ又ハ取消シタル上更ニ處分ヲ爲スニハ陸軍大臣ノ定ムル場合ヲ除クノ外總理徵兵官ノ認可ヲ受クベシ

聯隊區司令官ノ爲シタル處分ヲ取消シ又ハ取消シタル上更ニ處分ヲ爲スコトヲ要スルモノアルトキハ前二項ノ規定ニ準ジ陸軍大臣ノ認可ヲ受クベシ

第百四十二條 徵兵官又ハ聯隊區司令官ノ爲シタル處分ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ

第百四十三條第一項

第八十條ノ規定ニ依ル身體檢査竝ニ朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島又ハ滿洲國ニ在ル者ノ服役及召集ニ關シテハ主務大臣ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、府尹、郡守、島司及警察署長、臺灣ニ在リテハ州知事、廳長、郡守、市尹及警察署長、關東州ニ在リテハ關東州廳長官及警察署長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官及支廳長、滿洲國ニ在リテハ大使及大使館兵事員、其ノ他ノ地ニ在リテハ領事官ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ擔任セシムルコトヲ得

第百四十四條第三項

徵兵檢査ヲ受クル爲居住地所在ノ徵募區以外ノ地ニ旅行シタル者及其ノ附添人ノ旅費ハ內務大臣又ハ拓務大臣ノ定ムルモノヲ除クノ外前二項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ官給セズ第八十條又ハ第百十一條ニ掲グル地域ニ在留スル者ニシテ第八十條又ハ第百十一條ノ規定ニ依ル身體檢査ヲ受ケザル者及其ノ附添人ノ旅費ニ付亦同ジ

第百四十五條 徵兵事務終ルトキハ管內徵兵事務ノ狀況ヲ聯隊區司令官ハ師團長ニ、師團長ハ陸軍大臣ニ報告シ陸軍大臣ハ全國徵兵事務ノ狀況ヲ上奏スベシ

○大正十一年勅令第百三號陸軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件中改正ノ件

（昭和十六年三月二十九日公布 同 十六年四月一日ヨリ施行）

勅令第三百三十三號

大正十一年勅令第百三號中左ノ通改正ス

「民政署ノ官吏」ノ下ニ「、南洋群島ニ於テハ南洋廳支廳ノ官吏」ヲ加フ

附　則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

大正十一年三月三十一日公布勅令第百三號抄錄

陸軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フベキ職務ハ市制町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ市町村吏員ニ準ズル吏員、朝鮮ニ於テハ府邑面ノ官吏吏員、臺灣ニ於テハ市街庄ニ在リテハ其ノ官吏吏員其ノ他ノ地域ニ在リテハ郡ノ官吏、樺太ニ於テハ市町村吏員、關東州ニ於テハ市ノ官吏吏員又ハ民政署ノ官吏之ヲ行フ

○大正十一年勅令第百四號海軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件中改正ノ件

（昭和十六年三月二十九日公布 同 十六年四月一日ヨリ施行）

勅令第三百三十五號

大正十一年勅令第百四號中左ノ通改正ス

「民政署ノ官吏」ノ下ニ「、南洋群島ニ於テハ南洋廳支廳ノ官

吏」ヲ加フ

附　則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

大正十一年三月三十一日公布勅令第百四號抄錄

海軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フベキ職務ハ市制町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ市町村吏員ニ準ズル吏員、朝鮮ニ於テハ府邑面ノ官吏吏員、臺灣ニ於テハ市街庄ニ在リテハ其ノ官吏吏員其ノ他ノ地域ニ在リテハ郡ノ官吏、樺太ニ於テハ市町村吏員、關東洲ニ於テハ市ノ官吏吏員又ハ民政署ノ官吏之ヲ行フ

○商工會議所法施行令ノ臨時特例ニ關スル件

（昭和十六年三月十八日公布 同年四月一日ヨリ施行）

勅令第二百二十四號

第一條　商工會議所ハ昭和十六年法律第三號ニ依リ議員ノ選擧權ヲ有スル者ニ對シ一年間ノ營業收益税、鑛産税又ハ取引所營業税ノ地區內ニ於ケル納税額ヲ標準トシ左ノ制限內ニ於テ定ムル賦課率ニ依リ其ノ經費ヲ賦課スルコトヲ得

一　營業收益税　百分ノ二十五

二　鑛産税　百分ノ二十

三　取引所營業税　百分ノ十

商工會議所法施行令第一條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條　會社ニ對スル經費ノ賦課ニ付テハ資本利子税額ノ控除ヲ爲サザル營業收益税額ヲ以テ前條ノ營業收益税ノ納税額ト看做ス

第三條　昭和十六年法律第三號ニ依リ議員ノ選擧權ヲ有スル會社ニシテ商工會議所法第十四條第三項ノ規定ニ基ク命令ノ定ムル金額以上ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ヲ有スルモノニ對シテハ第一條ノ規定ニ拘ラズ商工會議所法施行令第三條ノ例ニ依リ經費ヲ賦課スルコトヲ妨ゲズ

第四條　前三條ノ規定ハ商工會議所法第四十八條ノ規定ニ依リ債務ヲ完濟スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スル場合ニ之ヲ準用ス但シ其ノ賦課率ハ第一條又ハ前條ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十六年二月十九日公布法律第三號ハ商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル件ナリ

省　令

○昭和十三年法律第三號施行ニ關スル件

（昭和十六年三月十九日公布 同年四月一日ヨリ施行）

第一條　昭和十六年法律第三號第一項ノ納税額ヲ左ノ通定ム

商工會議所	營業收益税又ハ鑛産税	取引所營業税
東京市、大阪市ニ事務所ヲ有スルモノ	百圓	二千圓
京都市、横濱市、神戸市、名古屋市ニ事務所ヲ有スルモノ	三十圓	五百圓
其ノ他ノモノ	十五圓	百圓

第二條　商工會議所ノ地區外ニモ營業場ヲ有スル者ニ付テハ商工會議所ノ地區ノ屬スル市町村ニ於テ營業收益税又ハ鑛産税附加税賦課ノ歩合又ハ課税標準タルベキ本税額ノ定アルトキハ其ノ歩合ニ依ル本税額又ハ課税標準タルベキ本税額ヲ以テ其ノ地區內ニ於ケル納税額ト看做ス

前項ノ歩合又ハ課税標準タルベキ本税額ノ定ナキトキハ商工會議所ハ其ノ地區內ニ於ケル納税ノ額ト看做スベキ金額ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三條　前條ノ規定ハ昭和十六年法律第三號ノ規定ニ依リ議員ノ選擧權ヲ有スル會社ニ對シ商工會議所法施行令第三條ノ例ニ依リ經費ヲ賦課スル場合ニ於テ同條但書ノ經費賦課ノ標準ト爲スベキ金額ノ算出方法ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十六年二月十九日公布法律第三號ハ商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル件ナリ

勅　令

○昭和十六年法律第二十八號第一項ノ規定ニ依リ關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ所屬セシムル經費及收入ヲ定ムル件

（昭和十六年三月二十九日公布 同年ヨリ施行、附則參照）

勅令第三百二十四號

昭和十六年法律第二十八號第一項ノ規定ニ依リ關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ所屬セシムル經費及收入ハ左ノ如シ

一　簡易生命保險及便郵年金ノ現業事務、現業事務ノ管理ニ關スル事務及積立金ノ貸付調査ニ關スル事務ノ取扱ニ要スル費用竝ニ簡易生命保險ノ被保險者保健施設ニ要ス

ル費用

二　前號ノ事務ノ取扱ニ伴ヒ生ズル附屬雜收入及同號ノ被保險者保健施設ノ運營ニ因リ生ズル收入

附　則

本令ハ昭和十六年度ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十六年三月五日公布　法律第二十八號ハ關東局、臺灣總督府樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ關スル經費等ニ關スル件ナリ

○昭和十五年法律第七十七號昭和十三年法律第二十三號中改正法律施行期日ノ件

（昭和十六年三月二十八日公布）

勅令第三百二號

昭和十五年法律第七十七號ハ昭和十六年三月三十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十三年三月二十三日公布　法律第二十三號ハ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル件ナリ

○昭和十五年勅令第百二十七號昭和十三年法律第二十三號第一條ノ規定ニ依リ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベキ金額ヲ定ムルノ改正ノ件

（昭和十六年三月二十八日公布　昭和十五年三月二十九日ヨリ施行）

勅令第三百三號

第一條　昭和十三年法律第二十三號第一條ノ規定ニ依リ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベキ金額ハ本令ニ定ムル繰入基本額ヨリ徵稅費ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ノ八割トス

第二條　關東局特別會計ニ於ケル繰入基本額ハ左ノ各號ノ金額ノ合計額ヨリ第一種所得稅及第三種所得稅ノ昭和十五年度稅率改正ニ因ル增收額ニ相當スル金額ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額トス

一　所得稅、法人資本稅、外貨債特別稅、揮發油稅及臨時利得稅ノ昭和十三年度以降ノ增徵ニ因ル增收額

二　利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、建築稅及遊興飲食稅ノ創設ニ因ル收入額

第三條　朝鮮總督府特別會計ニ於ケル繰入基本額ハ左ノ各號ノ金額ノ合計額ヨリ昭和十五年度改正稅率ニ依ル藝妓ノ花代ニ對スル遊興飲食稅收入額ノ百分ノ二十ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額トス

一　印紙稅及個人ノ臨時利得稅ノ昭和十三年度以降ノ增徵ニ因ル增收額

二　利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、建築稅及遊興飲食稅ノ創設ニ因ル收入額

三　第一種所得稅收入額ノ百分ノ十三・三ニ相當スル金額

四　第二種所得稅收入額ノ百分ノ十ニ相當スル金額

五　第三種所得稅收入額ノ百分ノ二十ニ相當スル金額

六　法人資本稅收入額ノ百分ノ十六・七ニ相當スル金額

七　清涼飲料稅收入額ノ百分ノ三十三・二ニ相當スル金額

八　砂糖消費稅收入額ノ百分ノ十五・二ニ相當スル金額

九　取引稅收入額ノ百分ノ二十四・三ニ相當スル金額

十　出港稅收入額ノ百分ノ四十四・六ニ相當スル金額

十一　法人ノ臨時利得稅收入額ノ百分ノ七十九・三ニ相當スル金額

十二　特別法人稅收入額ノ百分ノ二十ニ相當スル金額

第四條　臺灣總督府特別會計ニ於ケル繰入基本額ハ左ノ各號ノ金額ノ合計額トス

一　第二種所得稅及印紙稅ノ昭和十三年度以降ノ增徵ニ因ル增收額

二　特別法人稅、利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、建築稅及遊興稅ノ創設ニ因ル收入額

三　第一種所得稅收入額ノ百分ノ十八・五ニ相當スル金額

四　第三種所得稅收入額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額

五　法人資本稅收入額ノ百分ノ十六・七ニ相當スル金額

六　砂糖消費稅收入額ノ百分ノ十八・八ニ相當スル金額

七　出港稅收入額ノ百分ノ十八・九ニ相當スル金額

八　臨時利得稅收入額ノ百分ノ四十四・一ニ相當スル金額

九　配當稅收入額ノ百分ノ五十・三ニ相當スル金額

第五條　樺太廳特別會計ニ於ケル繰入基本額ハ左ノ各號ノ金額ノ合計額ヨリ鑛產稅廢止ニ因ル減收額ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額トス

一　所得稅、營業收益稅、資本利子稅、法人資本稅、酒造稅、砂糖消費稅、出港稅、印紙稅及臨時利得稅ノ昭和十三年度以降ノ增徵ニ因ル增收額

二　特別法人稅、利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、建築稅及遊興飲食稅ノ創設ニ因ル收入額

附　則

本令ハ昭和十五年法律第七十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○委員會等ノ整理等ニ關スル法律ノ一部施行期日ノ件

（昭和十六年三月二十五日公布　同年三月二十七日ヨリ施行）

勅令第二百六十六號

昭和十六年法律第三十五號第十二條、第十三條及第四十條ノ規定ハ昭和十六年三月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十六年三月六日公布法律第三十五號抄錄

第十二條　農村負債整理資金特別融通及損失補償法中左ノ通改正ス

第九條中「負債整理資金特別融通損失審査會」ヲ「農林金融改善特別融通損失審査會」ニ改ム

第十五條中「本法第九條ノ負債整理資金特別融通損失審査會」ヲ「農林金融改善特別融通損失審査會」ニ改ム

第十三條　臨時農村負債處理法中左ノ通改正ス

第十八條中「農村負債整理資金特別融通及損失補償法第九條ノ負債整理資金特別融通損失審査會」ヲ「農林金融改善特別融通損失審査會」ニ改ム

第四十條　第十二條又ハ第十三條ノ規定施行前農村負債整理資金特別融通及損失補償法第九條ノ負債整理資金特別融通損失審査會ニ於テ爲シタル決定ハ農林金融改善特別融通損失審査會ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

○昭和十六年法律第三十五號委員會等ノ整理等ニ關スル法律ノ一部施行期日ノ件

（昭和十六年三月二十八日公布　同年四月一日ヨリ施行）

勅令第三百六號

昭和十六年法律第三十五號第二條乃至第四條、第十五條、第十七條乃至第二十二條、第三十一條及第四十一條ノ規定ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十六年三月六日公布法律第三十五號委員會等ノ整理ニ關スル件抄錄

第二條　對支文化事業特別會計法中左ノ通改正ス

第九條中「對支文化事業調査會ニ諮問シ」ヲ削ル

第三條　著作權法中左ノ通改正ス

第三十六條ノ三第一項ヲ左ノ如ク改ム

第二十二條ノ五第二項又ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依ル償金ノ額ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ゼシムル爲著作權審査會ヲ置ク

第四條　映畫法中左ノ通改正ス

第十九條　削除

第十五條　製鐵事業法中左ノ通改正ス

第二十五條　削除

第十七條　重要鑛物增產法中左ノ通改正ス

第十九條第一項ヲ左ノ如ク改ム

政府第十六條第二項ノ規定ニ依ル補償ヲ爲サントスルトキハ重要鑛物委員會ノ議ヲ經ベシ

第十八條　百貨店法中左ノ通改正ス

第二十一條　削除

第十九條　自動車製造事業法中左ノ通改正ス

第十八條　削除

第二十條　輕金屬製造事業法中左ノ通改正ス

第三十四條　第一項ヲ左ノ如ク改ム

政府第二十條ノ規定ニ依ル補償金額ノ決定ヲ爲サントスルトキハ輕金屬製造事業委員會ノ議ヲ經ベシ

第二十一條　有機合成事業法中左ノ通改正ス

第二十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

政府第二十條ノ規定ニ依ル補償金額ノ決定ヲ爲サントスルトキハ有機合成事業委員會ノ議ヲ經ベシ

第二十二條　昭和十二年法律第七十三號ハ之ヲ廢止ス

第三十一條　國立公園法中左ノ通改正ス

第一條中「國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ區域ヲ定メ主務大臣」ヲ「主務大臣區域ヲ定メ」ニ改ム

第三條中「國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ」ヲ削ル

第十二條　削除

第四十一條　第二十二條ノ規定施行前從前ノ昭和十二年法律第七十三號ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○昭和十六年法律第三十五號委員會等ノ整理等ニ關スル法律ノ一部施行期日ノ件

（昭和十六年四月四日公布）

勅令第四百一號

昭和十六年法律第三十五號第三十條ノ規定ハ昭和十六年四月十日ヨリ施行ス

〔參　照〕

昭和十六年三月六日公布法律第三十五號委員會等ノ整理ニ關スル件抄錄

○昭和十六年法律第三十五號委員會等ノ整理等ニ關スル法律ノ一部施行期日ノ件

（昭和十六年四月八日公布　同年四月二十日ヨリ施行）

勅令第四百五十九號

昭和十六年法律第三十五號第六條ノ規定ハ昭和十六年四月二

十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十六年三月六日公布法律第三十五號委員會等ノ整理ニ關スル件抄錄

第六條　日本銀行特別融通及損失補償法中左ノ通改正ス

第一條第三項及第四項ヲ削ル

○昭和十六年法律第三十五號委員會等ノ整理等ニ關スル法律ノ一部施行期日ノ件

（昭和十六年四月十八日公布）

勅令第五百二十二號

昭和十六年法律第三十五號第二十三條乃至第二十九條ノ規定ハ昭和十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

○農工銀行法第七條ノ規定ニ依リ同法第六條ノ二ノ貸付制限額ヲ超過シ得ル地方ヲ指定スルノ件

（昭和十六年四月十八日公布即日施行、附則參照）

勅令第四百六十一號

農工銀行法第七條ノ規定ニ依リ同法第六條ノ二ノ貸付制限額ヲ超過シテ拂込資本金額、積立金總高及農工債券發行額ノ三分ノ二ヲ增加シ得ル地方ヲ定ムルコト左ノ如シ

神奈川縣　愛知縣

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年勅令第百三十二號ハ之ヲ廢止ス

〔參　照〕

明治二十九年四月二十日公布法律第八十三號農工銀行法抄錄

第六條ノ二　工場財團及工場ニ屬スル敷地又ハ建物ヲ除クノ外市制施行地及勅令ヲ以テ指定スル市街地ニ存在スル宅地若ハ建物ヲ抵當トシ又ハ之ヲ抵當トスル債權（抵當證券ヲ含ム）ヲ質トスル貸付金額竝前條第六號ノ貸付金額ハ拂込資本金額及農工債券發行額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條　前條ノ貸付ハ勅令ヲ以テ指定スル地方ニ限リ拂込資本金額及農工債券發行額迄之ヲ增加スルコトヲ得

明治四十四年五月一日公布勅令第百三十二號ハ日本興業銀行法等ニ依ル市街地及地方ノ指定ニ關スル件ナリ

省　令

○輸出補償法施行規則改正

（昭和十六年三月三十一日公布同十六年四月一日ヨリ施行）

商工省令第二十一號

輸出補償法施行規則左ノ通改正ス

昭和十六年三月三十一日

商工大臣　小　林　一　三

第一章　總則

第一條　政府ト補償契約ヲ爲スコトヲ得ル銀行ハ內地ニ本店ヲ有スルモノ又ハ朝鮮、臺灣若ハ樺太ニ本店ヲ有シ且內地ニ支店ヲ有スルモノトス

第二條　政府ト補償契約ヲ爲サントスル銀行ハ毎年商工大臣ノ指定スル期日迄ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　補償契約ニ基キ買取ルベキ荷爲替手形又ハ約束手形以外ノ爲替手形ニ付テノ損失補償金額ノ限度

二　補償ヲ受クルコトヲ得ベキ手形（以下補償手形ト稱ス）ヲ買取ルベキ營業所ノ名稱及位置

第三條　政府ガ銀行ト補償契約ヲ爲シタルトキハ商工大臣ハ其ノ銀行ノ名稱、補償手形ノ種類竝ニ補償手形ヲ買取ルベキ營業所ノ名稱及位置ヲ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

第四條　銀行ガ補償手形ヲ買取ルコトヲ得ル期間ハ補償契約ヲ爲シタル日ノ屬スル會計年度內トス

第五條　銀行ハ商工大臣ノ承認ヲ受ケ其ノ買取ルベキ補償手形ノ種類、損失補償金額ノ限度又ハ補償手形ヲ買取ルベキ營業所ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第六條　補償手形ヲ買取リタル銀行ハ補償料ヲ歲入徵收官ノ指定スル期日迄ニ其ノ指定スル日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ納付スベシ

第七條　補償手形ヲ買取リタル銀行ハ其ノ手形ニ付遲滯ナク遡求權以外ノ手形上ノ權利ノ保全ノ爲必要ナル手續ヲ爲スベシ

第八條　補償手形ヲ買取リタル銀行ハ其ノ手形ニ付左ノ事項ヲ遲滯ナク商工大臣ニ屆出ヅベシ

一　引受又ハ支拂ノ拒絕アリタルトキハ其ノ事實及年月日

二　全部又ハ一部ノ支拂アリタルトキハ其ノ事實、金額及年月日

三　支拂人ノ信用狀態著シク變化シ支拂ニ支障ヲ生ズル虞アリト認メラルルトキハ其ノ事實

第九條　補償手形ヲ買取リタル銀行ハ其ノ手形ヲ讓渡スコトヲ得ズ但シ商工大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　銀行ノ政府ニ對スル損失補償ノ請求ハ其ノ手形ノ滿期後一年以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ商工大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條　政府ノ銀行ニ對スル損失ノ補償ハ補償契約ニ定ムル損失補償金額ノ限度内ニ於テ之ヲ爲スモノトシ其ノ割合ハ百分ノ九十トス

第十二條　政府ハ補償手形ノ滿期ニ支拂ヲ受クルコト能ハザルニ至リタル事由ガ銀行ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタル場合ニ於テハ補償ノ責ニ任ゼズ

第十三條　銀行ハ損失補償金ニ相當スル金額ニ付テハ遡求權ヲ行ハザルモノトス

第十四條　商工大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ銀行ニ對シ補償手形ノ買取ノ制限ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトアルベシ

第十五條　補償契約ヲ爲シタル銀行ガ第十九條又ハ第三十六條ノ手續ヲ爲シタル後補償手形ニ關シ本則ニ依リ申請、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ書類ニ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　手形ノ種類

二　手形ノ番號

三　振出人又ハ受取人ノ名稱

四　支拂人ノ名稱

第二章　荷爲替手形ニ關スル補償契約

第十六條　荷爲替手形ノ振出人ハ輸入組合若ハ其ノ組合員、二年以上引續キ輸出ヲ業トシ信用確實ナル者又ハ商工大臣ノ承認ヲ受ケタル者ナルコト、其ノ支拂人ハ銀行ガ信用確實ナル者ト認メタルモノナルコトヲ要ス

第十七條　銀行ガ補償契約ニ基キ買取ルベキ荷爲替手形ハ其ノ手形ガ註文ニ依リ商品ヲ輸出スル爲振出サレタルモノナルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ商工大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條　銀行ハ左ノ荷爲替手形ヲ補償手形トシテ買取ルコトヲ得ズ

一　一覽後定期拂ノ手形ニ在リテハ滿期ガ一覽後三月ヲ超ユルモノ

二　一覽拂及一覽後定期拂ノ手形以外ノ手形ニ在リテハ滿期ガ振出ノ日ヨリ四月ヲ超ユルモノ

三　額面金額ガ附屬荷物ノ契約價格ヲ超ユルモノ

四　附屬荷物ノ保險價格ノ全部ヲ保險ニ付セザルモノ但シ荷受人ニ於テ其ノ全額ヲ保險ニ付スベキ旨ノ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

五　内地ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ガ内地ニ於テ振出シタル手形ニ非ザルモノ

第十九條　銀行ガ補償契約ニ基キ荷爲替手形ヲ買取リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル屆書ヲ十日以内ニ商工大臣ニ提出スベシ

一　手形ノ種類

二　手形ノ番號

三　銀行ガ手形ヲ買取リタル年月日及營業所ノ名稱

四　手形ノ滿期

五　手形ノ額面金額

六　手形ノ振出人ノ名稱及住所又ハ營業所

七　手形ノ支拂人ノ名稱及住所又ハ營業所

八　引受渡條件ノ手形又ハ支拂渡條件ノ手形ノ區別

九　附屬荷物ノ生産、製造又ハ加工セラレタル地域

十　附屬荷物ノ名稱及仕向地

十一　滿期以後ノ利息ニ付特別ノ約款アルトキハ其ノ約款

十二　補償料ノ金額

前項ノ屆書ニハ手形ノ支拂人ノ信用調査書及手形ノ振出人ガ輸出組合又ハ其ノ組合員ニ非ザルトキハ二年以上引續キ輸出ヲ業トスル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

前項ノ信用調査書及二年以上引續キ輸出ヲ業トスル者ナルコトヲ證スル書面ハ既ニ他ノ手形ニ付之ヲ提出シタル場合ニ於テハ其ノ事項ニ變更ナキ限リ其ノ旨ヲ表示シ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十條　補償料ノ金額ハ荷爲替手形ノ額面金額ニ左ノ割合ヲ乘ジテ得タル金額トス

一　引受渡條件ノ手形ニ在リテハ百分ノ二

二　支拂渡條件ノ手形ニ在リテハ百分ノ一

商工大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ補償料ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲スコトアルベシ

第二十一條　前條ノ補償料ヲ算出スル場合ニ於テ荷爲替手形ノ額面金額ガ外國ノ通貨ヲ以テ表示セラルルトキハ銀行ガ其ノ手形ヲ買取リタル爲替相場ニ依リ其ノ金額ヲ日本ノ通貨ニ換算スルモノトス

第二十二條　銀行ハ荷爲替手形ガ引受渡條件ノ手形ノ場合ニ於テハ引受前ニ、支拂渡條件ノ手形ノ場合ニ於テハ支拂前ニ附屬荷物ヲ引渡スコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ商工大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　銀行ガ荷爲替手形ニ付支拂渡條件ヲ引受渡條件ニ變更シタルトキハ其ノ手形ノ額面金額ニ百分ノ一ヲ乘ジテ得タル金額ヲ補償料トシテ政府ニ追納スベシ

第二十一條ノ規定ハ前項ノ補償料ノ算出ニ之ヲ準用ス

第二十四條　銀行ガ荷爲替手形ニ付支拂渡條件ヲ引受渡條件ニ變更シタルトキハ其ノ事實及年月日並ニ前條ノ規定ニ依リ政府ニ追納スベキ補償料ノ金額ヲ記載シタル屆書ヲ十日以内ニ商工大臣ニ提出スベシ

第二十五條　損失補償ノ請求ハ其ノ手形ニ付附屬荷物アルトキハ之ヲ處分シタル後ニ於テ爲スベキモノトス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ商工大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ銀行ハ輸出補償法第二條第一項第

一號ニ揭グル金額ヲ控除セズシテ損失ヲ計算シ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　銀行ガ政府ニ對シ損失補償ノ請求ヲ爲サントスルトキハ補償ヲ受ケントスル金額及滿期ニ支拂ヲ受クルコト能ハザリシ理由ヲ記載シタル請求書ニ左ニ揭グル書面ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　手形、之ニ附屬セル船荷證券又ハ貨物引換書（小包郵便ニ依ル場合ニハ其ノ受領書）及送狀ノ各寫

二　支拂拒絕證書ノ謄本其ノ他ノ支拂ヲ受クルコト能ハザリシコトヲ證スル書面

三　註文書ノ寫

四　損失ニ關スル計算書

第二十七條　荷爲替手形ノ額面金額ガ外國ノ通貨ヲ以テ表示セラルル場合ニ於テハ前條ノ補償ヲ受ケントスル金額ハ滿期ノ電信爲替賣相場ニ依リ之ヲ日本ノ通貨ニ換算スルモノトス

前項ノ電信爲替賣相場ハ橫濱正金銀行ノ建値ニ依ル

前項ノ建値ナキトキハ第一項ニ依ル換算ハ商工大臣ノ定ムル率ニ依ル

第二十八條　第二十六條ノ規定ニ依リ政府ニ對シ損失補償ノ請求ヲ爲シタル後銀行ガ補償前ニ其ノ手形ニ付全部又ハ一部ノ支拂ヲ受ケタルトキハ其ノ金額及年月日ヲ遲滯ナク商工大臣ニ屆出ヅベシ

第二十九條　補償ヲ受ケタル銀行ガ輸出補償法第四條第一項但書ノ規定ニ依リ權利ノ全部又ハ一部ヲ行使セザルコトニ付認可ヲ受ケントスルトキハ權利ノ行使ニ要スル費用ガ其ノ行使ニ依リテ得ベキ金額ヲ超ユルモノト認メラルル場合ニ於テハ申請書ニ權利ノ行使ニ要スル費用及其ノ內譯並ニ其ノ行使ニ依リテ得ベキ金額（權利ノ行使ニ依リテ得ベキ金額ガ手形ノ額面金額ニ達スルノ見込ナキトキハ其ノ金額及事由）ヲ、其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テハ其ノ事情ヲ記載シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

前項ノ規定ハ補償ヲ受ケタル銀行ガ輸出補償法第四條第一項但書ノ規定ニ依リ權利ノ全部又ハ一部ヲ一時行使セザルコトニ付認可ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ銀行ハ申請書ニ權利ヲ行使セザル期間及其ノ期間內權利ヲ行使セザル事由ヲ記載スベシ

第三十條　補償ヲ受ケタル銀行ガ遡求權以外ノ手形上ノ權利又ハ附屬荷物ニ對スル權利ヲ行使シ取得シタル金額アリタルトキハ其ノ金額ヨリ左ノ各號ニ揭グル金額ヲ控除シタル殘額ノ百分ノ九十ヲ政府ニ納付シ、百分ノ十ヲ銀行ニ於テ取得スベシ但シ銀行ガ其ノ損失ニ付遡求權ノ行使ニ依リ旣ニ全部ノ支拂ヲ受ケ居リタルトキハ其ノ取得スベキ金額ヲ、一部ノ支拂ヲ受ケ居リタルトキハ其ノ取得スベキ金額ノ中ヨリ殘餘ノ損失ヲ塡補シ尙殘額アルトキハ之ヲ支拂ヲ爲シタル者ニ返還スルモノトス

一　滿期ニ支拂ヲ受クルコト能ハザリシ金額ニ對スル滿期以後補償日ノ前日迄ノ利息（補償前ニ其ノ金額ニ付遡求權以外ノ手形上ノ權利又ハ附屬荷物ニ對スル權利ノ行使ニ依リテ取得シタル金額アリタルトキハ其ノ日以後ノ期間ニ付テハ其ノ殘額ニ對スル利息）

二　銀行ガ遡求權以外ノ手形上ノ權利又ハ附屬荷物ニ對スル權利ノ行使ノ爲支出シタル費用

第六條ノ規定ハ前項ノ金額ノ納付ニ之ヲ準用ス

第三十一條　補償ヲ受ケタル銀行ガ遡求權以外ノ手形上ノ權利又ハ附屬荷物ニ對スル權利ヲ行使シ取得シタル金額アリタルトキハ其ノ金額及年月日ヲ記載シタル屆書ニ前條ノ規定ニ依リ政府ニ納付スベキ金額ニ關スル計算書ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第三十二條　荷爲替手形ノ額面金額ガ外國ノ通貨ヲ以テ表示セラルル場合ニ於テハ第三十條ノ銀行ガ權利ノ行使ニ依リ取得シタル金額ハ其ノ取得ノ時ノ電信爲替賣相場ニ依リ之ヲ日本ノ通貨ニ換算スルモノトス

第二十七條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル換算ニ之ヲ準用ス

第三十三條　第三十條ノ場合ニ於テ銀行ノ取得スベキ金額又ハ政府ニ納付スベキ金額ノ中旣ニ取得シ又ハ納付シタルモノアルトキハ其ノ殘額ニ付計算スルモノトス

第三章　約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ニ關スル補償契約

第三十四條　輸出補償法第七條ノ約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ハ其ノ振出人及受取人又ハ支拂人並ニ輸出セントスル地域及商品ニ付銀行ガ豫メ商工大臣ノ承認ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

前項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ銀行ハ申請書ニ手形ノ振出人及受取人又ハ支拂人ノ信用調査書並ニ商品ノ輸出ニ關スル契約ノ概要ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

前項ノ信用調査書ハ手形ノ振出人又ハ支拂人ガ外國ノ政府又ハ公共團體ナルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十五條　銀行ハ左ノ約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ヲ補償トシテ買取ルコトヲ得ズ

一　滿期ガ振出ノ日ヨリ五年ヲ超ユルモノ

二　內地ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ガ內地ニ於テ受取リ又ハ振出シタル手形ニ非ザルモノ

第三十六條　銀行ガ補償契約ニ基キ約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ヲ買取リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル屆書ニ商品ノ輸出ニ關スル契約書ノ寫ヲ添附シ十日以內ニ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　手形ノ種類

二　手形ノ番號

三　銀行ガ手形ヲ買取リタル年月日及營業所ノ名稱

四　手形ノ滿期
五　手形ノ額面金額
六　手形ノ振出人及受取人又ハ支拂人ノ名稱及住所又ハ營業所
七　商品ノ生產、製造又ハ加工セラレタル地域
八　商品ノ名稱及仕向地
九　手形ノ支拂ニ付擔保又ハ保證アルトキハ其ノ種類及種類別ニ依ル價額又ハ保證限度
十　滿期以後ノ利息ニ付特別ノ約款アルトキハ其ノ約款
十一　補償料ノ金額

第三十七條　約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ノ書換アリタル場合ニ於テ新手形ノ滿期ガ最初ノ手形ノ振出ノ日ヨリ五年ヲ超エザルトキハ銀行ハ共ノ新手形ヲ補償手形ト爲スコトヲ得

第三十八條　銀行ガ前條ノ規定ニ依リ新手形ヲ補償手形ト爲シタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル屆書ヲ書換ノ日ヨリ十日以內ニ商工大臣ニ提出スベシ
一　新手形ノ番號
二　書換ノ年月日
三　新手形ノ滿期
四　新手形ノ額面金額

第三十九條　補償料ノ金額ハ約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ノ額面金額ニ千分ノ十五ヲ乘ジテ得タル金額トス

第四十條　第二十一條、第二十六條乃至第三十三條ノ規定ハ約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ニ關スル補償契約ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十六年法律第四十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ銀行ガ買取リタル手形ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○昭和十六年法律第四十四號輸出補償法改正法律施行期日ノ件

（昭和十六年三月二十八日公布）

勅令第三百五號

昭和十六年法律第四十四號ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○國防保安法施行令

（昭和十六年五月六日公布 昭和十六年五月十日ヨリ施行）

勅令第五百四十二號

第一條　主務大臣ハ國家機密ニ屬スル各事項ニ付其ノ取扱者其ノ他特ニ關係アル者ニ對シ秘密保持上執ルベキ措置其ノ他其ノ取扱方ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ
前項ノ規定ハ國防保安法第一條第一號又ハ第二號ニ規定スル國家機密ニ屬スル事項ニ付テハ御前會議ニ在リテハ內閣總理大臣、其ノ他ノ會議ニ在リテハ當該會議ノ長又ハ主宰者ニ之ヲ準用ス

第二條　前條ノ指示ニ係ル國家機密ニ屬スル事項ヲ表示スル圖書物件ノ保管者ハ當該圖書物件ニ附圖ニ定ムル標記ヲ附スベシ

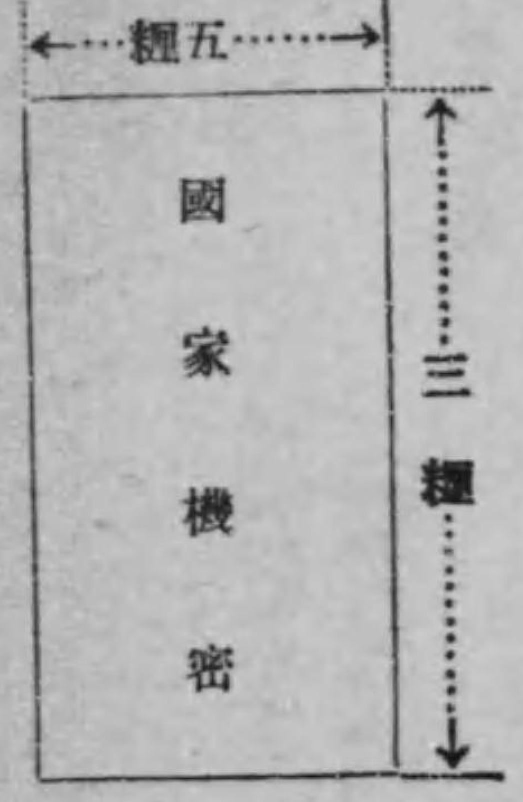
第三條　主務大臣及第一條第二項ニ規定スル者ハ各其ノ指示ニ係ル國家機密ニ屬スル事項ガ國防上外國ニ對シ秘匿スルコトヲ要セザルモノト爲ルニ至リタル場合ニ於テハ關係者ニ其ノ旨ヲ了知セシムル爲必要ナル措置ヲ執ルベシ
前項ノ場合ニ於テハ前條ノ圖書物件ノ保管者ハ當該圖書物件ニ附シタル標記ヲ抹消スベシ

附　則

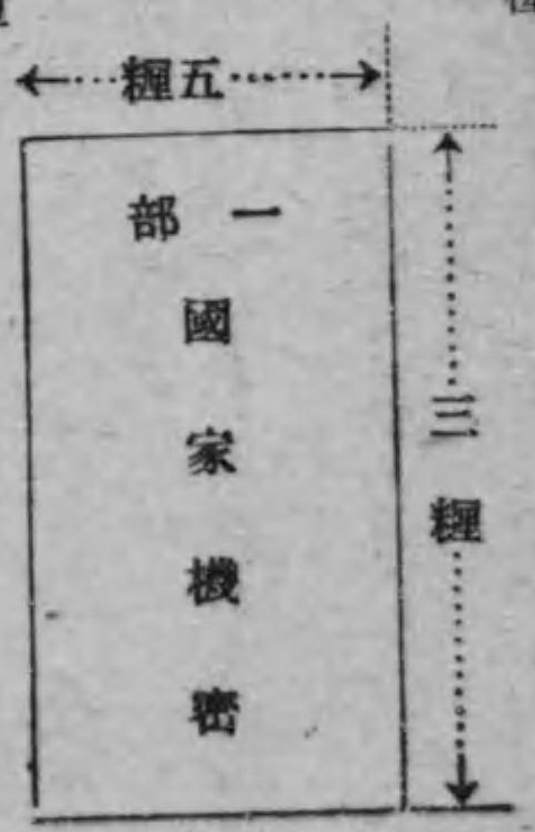
本令ハ國防保安法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附圖

第一種



第二種



第三種

大キサ適宜

備考
一　第一種及第二種ハ圖書ノ、第三種ハ物件ノ標記トシ赤色トス
二　國家機密ニ屬スル事項ノ表示ヲ一部ニ包含スル圖書ニ付テハ表紙ニ第二種ノ標記ヲ、當該事項ヲ表示スル部分ニ第一種ノ標記ヲ附スルモノトス

○帝都高速度交通營團法施行期日ノ件

（昭和十六年四月二十四日公布）

勅令第四百九十六號

帝都高速度交通營團法ハ昭和十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

○帝都高速度交通營團法施行令

（昭和十六年四月二十四日公布 昭和十六年五月一日ヨリ施行）

勅令第四百九十七號

第一章　出資證券

第一條　帝都高速度交通營團ノ出資證券ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ總裁之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

一　帝都高速度交通營團ノ名稱
二　帝都高速度交通營團成立ノ年月日
三　資本金額
四　出資一口ノ金額
五　出資一口ニ付拂込ミタル金額

第二回以後ノ出資拂込ヲ爲サシメタルトキハ拂込アル每ニ其ノ金額ヲ出資證券ニ記載スルコトヲ要ス

第二條　出資證券ハ記名式トス

第三條　出資者ノ持分ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ出資者原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ出資證券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ帝都高速度交通營團其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四條　帝都高速度交通營團ハ出資者原簿ヲ事務所ニ備置クコトヲ要ス

前項ノ原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　出資者ノ氏名及住所
二　各出資者ノ出資口數及出資證券ノ番號
三　出資各口ニ付拂込ミタル金額及拂込ノ年月日
四　各出資證券ノ取得ノ年月日

帝都高速度交通營團ノ出資者及債權者ハ業務時間內何時ニテモ出資者原簿ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第五條　出資者ニ對スル通知又ハ催告ハ出資者原簿ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所ヲ帝都高速度交通營團ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ出資申込人、出資引受人又ハ從前ノ出資者ニ對スル通知及催告ニ之ヲ準用ス

第二章　交通債券

第六條　交通債券ノ募集ニ應ゼントスル者ハ交通債券申込證二通ニ其ノ引受クベキ交通債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

交通債券申込證ハ總裁之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　帝都高速度交通營團ノ名稱
二　交通債券ノ總額
三　各交通債券ノ金額

四　交通債券ノ利率
五　交通債券償還ノ方法及期限
六　利息支拂ノ方法及期限
七　交通債券發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
八　帝都高速度交通營團ノ資本金額及拂込資本金額
九　舊交通債券借換ノ爲帝都高速度交通營團法第二十條ノ制限ニ依ラズ交通債券ヲ發行スルトキハ其ノ旨
十　前ニ交通債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額

交通債券發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ應募者ハ交通債券申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第七條　前條ノ規定ハ契約ニ依リ交通債券ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セズ國ニ於テ交通債券ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ引受クル部分及交通債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ自ラ交通債券ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ

第八條　交通債券ノ應募總額ガ交通債券申込證ニ記載シタル交通債券ノ總額ニ達セザルトキト雖モ交通債券ヲ成立セシムル旨ヲ交通債券申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ交通債券ノ總額トス

第九條　交通債券ノ募集ガ完了シタルトキハ總裁ハ遲滯ナク各交通債券ニ付其ノ全額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十條　交通債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ自己ノ名ヲ以テ帝都高速度交通營團ノ爲ニ第六條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ得

交通債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社二以上アルトキハ前項ノ行爲ハ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條　賣出ノ方法ニ依リ交通債券ヲ發行セントスルトキハ總裁ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一　賣出期間
二　交通債券賣出ノ價額
三　第六條第二項第一號乃至第六號及第八號乃至第十號ニ掲グル事項
四　第十二條ニ規定スル事項

第十二條　賣出期間內ニ賣上ゲタル交通債券ノ總額ガ前條ノ規定ニ依リ公告シタル交通債券ノ總額ニ達セザルトキハ其ノ賣上總額ヲ以テ交通債券ノ總額トス

第十三條　交通債券ハ全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ之ガ證券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ズ

第十四條　交通債券ニハ第六條第二項第一號乃至第六號ニ掲グル事項及證券番號ヲ記載シ總裁之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

賣出ノ方法ニ依リ發行スル交通債券ニハ第六條第二項第二號ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十五條　帝都高速度交通營團ハ事務所ニ交通債券原簿ヲ備置クコトヲ要ス

交通債券原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　交通債券ノ數及番號
二　證券發行ノ年月日
三　第六條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項
交通債券ヲ記名式ト爲シタルトキハ前項ニ掲グル事項ノ外其ノ交通債券ノ所有者ノ氏名及住所並ニ取得ノ年月日ヲ交通債券原簿ニ記載スルコトヲ要ス
帝都高速度交通營團ノ出資者及債權者ハ業務時間內何時ニテモ交通債券原簿ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得
第十六條　記名式交通債券ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ交通債券原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ證券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ帝都高速度交通營團其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
記名式交通債券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ質權者ノ氏名及住所ヲ交通債券原簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ帝都高速度交通營團其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
第十七條　第五條第一項及第二項ノ規定ハ交通債券ノ應募者、權利者又ハ所有者ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス
無記名式交通債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ公告ノ方法ニ依ルコトヲ得
第十八條　無記名式交通債券ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト引換ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得
第十九條　帝都高速度交通營團ガ帝都高速度交通營團法第二十七條ノ規定ニ依リ地下高速度交通事業又ハ之ニ關聯スル事業ノ讓受代價ニ付交通債券ヲ交付セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シテ鐵道大臣及內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
第二十條　帝都高速度交通營團法第二十七條ノ規定ニ依リ交付スル交通債券ノ價額ハ類似ノ證券ノ相場ヲ參酌シ鐵道大臣、內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第三章　登記

第二十一條　帝都高速度交通營團ノ設立ノ登記ハ出資者總會終結ノ日ヨリ二週間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス
一　目的
二　名稱
三　事務所
四　資本金額
五　出資一口ノ金額
六　出資一口ニ付拂込ミタル金額
七　總裁、副總裁、理事及監事ノ氏名及住所
八　公告ノ方法

第二十二條　帝都高速度交通營團ガ事務所ヲ移轉シタルトキハ二週間內ニ移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
第二十三條　第二十一條第二項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ二週間內ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
第二十四條　交通債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第九條ノ拂込アリタルトキ又ハ第十一條ノ賣出期間滿了シタルトキハ二週間內ニ交通債券ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ登記ニハ第六條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
第二十五條　帝都高速度交通營團法第二十七條ノ規定ニ依ル交通債券ヲ發行シタルトキハ發行ノ日ヨリ二週間內ニ第六條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
第二十六條　帝都高速度交通營團ガ帝都高速度交通營團法第五十四條第一項ノ規定ニ依リ社債ノ元利支拂義務ヲ承繼シタルトキハ承繼ノ日ヨリ二週間內ニ擔保附社債信託法第三十四條第一項ノ規定ニ準ジ登記ヲ爲スコトヲ要ス
第二十七條　第二十三條ノ規定ハ前三條ノ登記ニ之ヲ準用ス
第二十八條　登記スベキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
第二十九條　登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス
第三十條　帝都高速度交通營團ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス
登記所ニ帝都高速度交通營團登記簿ヲ備フ
第三十一條　設立ノ登記ヲ除クノ外本令ニ依ル登記ハ總裁ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
第三十二條　設立登記ノ申請書ニハ定款、出資者總會ノ議事錄、出資申込書其ノ他出資ノ引受ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並ニ總裁、副總裁、理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
事務所ノ移轉其ノ他第二十一條第二項ニ掲グル事項ノ變更ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第三十三條　交通債券ノ登記ノ申請書ニハ交通債券申込證其ノ他交通債券ノ引受ヲ證スル書面及各交通債券ニ付第九條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面又ハ賣出期間內ニ於テ賣上ゲタル交通債券ノ總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第二十五條ノ規定ニ依ル登記ノ申請書ニハ前項ニ掲グル書類ニ代ヘ當該交通債券ノ總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第三十四條　第二十六條ノ規定ニ依ル登記ノ申請書ニハ社債ノ元利支拂義務ヲ承繼シタル旨ヲ記載シ陸上交通事業調整法第二條ノ命令ニ基キ鐵道財團ニ屬スルモノノ全部ヲ讓受ケタルコトヲ證スル書面及鐵道財團ニ屬スルモノノ全部

讓渡シタル會社ノ社債ニ關スル登記簿ノ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十二條第二項ノ規定ハ交通債券ニ關スル登記事項ノ變更ノ登記及第二十六條ノ規定ニ依リ登記シタル事項ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三十五條　非訟事件手續法第百四十二條乃至第百五十一條ノ六及第百五十四條乃至第百五十七條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス

第四章　會計

第三十六條　帝都高速度交通營團ノ利益金ノ配當ハ拂込ミタル出資金額ニ對シ年百分ノ六ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五章　雜則

第三十七條　帝都高速度交通營團ガ陸上交通事業調整法第二條ノ命令ニ基キ鐵道財團ニ屬スルモノノ全部ヲ讓受ケタルトキハ帝都高速度交通營團及讓渡人ハ抵當權者ニ對シ帝都高速度交通營團法第五十四條ノ規定ニ依リ該鐵道財團及之ヲ擔保トスル借入金又ハ社債ノ元利支拂義定ノ承繼アリタル旨竝ニ承繼ノ日ヲ通知スルコトヲ要ス

第三十八條　帝都高速度交通營團ガ承繼シタル鐵道財團及之ヲ目的トスル低當權ニ付テハ鐵道抵當法ヲ準用ス

第三十九條　帝都高速度交通營團法第五十四條第一項ノ規定ニ依リ社債ノ元利支拂義務ノ承繼アリタル場合ニ於テ鐵道財團ニ屬スルモノノ外擔保タル不動産アルトキハ該不動産ハ從前ト同一ノ態樣ニ於テ該社債ノ元利支拂義務ヲ擔保スルモノトス

第四十條　帝都高速度交通營團法第五十四條第一項ノ規定ニ依リ社債ノ元利支拂義務ノ承繼アリタル場合ニ於テハ從前ノ社債券ハ帝都高速度交通營團ニ對スル該債權ヲ表示スルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ擔保附社債信託法ニ依ル從前ノ社債ノ委託會社ハ從前ノ社債原簿又ハ其ノ謄本ニ就キ帝都高速度交通營團ノ承繼シタル債務ニ關スル債權者原簿ヲ作成シ之ヲ帝都高速度交通營團ニ交付スルコトヲ要ス

第一項ノ場合ニ於テハ帝都高速度交通營團法第五十四條第二項ニ規定スル抵當權及前條ニ規定スル抵當權ニ關シ帝都高速度交通營團ト從前ノ社債ノ受託會社トノ間ニ從前ト同一ノ態樣ニ於テ信託關係存續スルモノトス

第四十一條　前條第一項ノ證券及同條第二項ノ債權者原簿竝ニ承繼債務ニ關スル權利ノ實行ニ付テハ擔保附社債信託法ヲ準用ス

第四十二條　帝都高速度交通營團法中主務大臣トアルハ鐵道大臣及內務大臣トス

附　則

第四十三條　本令ハ帝都高速度交通營團法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條　帝都高速度交通營團ニ出資ノ申込ヲ爲サントスル者ハ出資申込書三通ニ其ノ引受クベキ口數及住所ヲ記載シ之ニ記名捺印シ設立委員ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ出資申込書ハ設立委員之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　帝都高速度交通營團ノ名稱
二　目的
三　定款認可ノ年月日
四　事務所ノ所在地
五　資本金額
六　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
七　公告ノ方法

前二項ノ規定ハ政府ノ出資申込ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四十五條　出資ノ申込ニ對スル割當ニ付テハ設立委員ハ鐵道大臣及內務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請書ニハ出資申込書ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十六條　出資ノ引受ヲ爲シタル者ガ出資ノ第一回ノ拂込ヲ爲サザルトキハ設立委員ハ一定ノ期間內ニ其ノ拂込ヲ爲スベキ旨及其ノ期間內ニ之ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ出資ノ引受ヲ爲シタル者ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ通知アリタルニ拘ラズ出資ノ引受ヲ爲シタル者ガ其ノ期間內ニ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ設立委員ハ其ノ者ガ引受ケタル出資ニ付更ニ出資者ヲ募集スベシ

第四十七條　出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各出資者ノ出資口數、拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日ヲ記載シタル書面竝ニ之ニ關スル證憑書類ヲ提出シ鐵道大臣及內務大臣ノ檢査ヲ受クベシ

第四十八條　前條ノ檢査ヲ終リタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資者ノ總會ヲ招集シ帝都高速度交通營團ノ設立ニ關スル事項ヲ報告スベシ

第四十九條　總會ヲ招集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ各出資者ニ通知スルコトヲ要ス

第五十條　總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ鐵道大臣及內務大臣ニ屆出ヅベシ

第五十一條　帝都高速度交通營團總裁設立委員ヨリ其ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ鐵道大臣及內務大臣ニ屆出ヅベシ

○昭和十六年法律第五十三號日本發送電株式會社法中改正法律施行期日ノ件

（昭和十六年四月二十二日公布）

勅令第四百八十四號

昭和十六年法律第五十三號ハ昭和十六年四月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

○電力管理法施行令中改正ノ件

（昭和十六年四月二十二日公布
同年四月二十五日ヨリ施行）

勅令第四百八十五號

電力管理法施行令中左ノ通改正ス

第二條第一號ニ左ノ二項ヲ加フ

（三）（一）又ハ（二）ノ發電設備ト運轉上密接ナル關係ヲ有スル發電設備

（四）發生電力ノ送電上主トシテ第二號（一）又ハ（二）ノ送電設備ニ依存スル發電設備

同條第二號（二）ノ項ヲ左ノ如ク改ム

（二）最大電壓四萬ヴオルト以上十萬ヴオルト未滿ニ於テ使用セラルルモノ但シ需用地ニ於ケル送電設備ニシテ配電上重要ナルモノヲ除ク

附則第二項ヲ削ル

附　則

本令ハ昭和十六年四月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十三年八月九日公布　勅令第五百七十五號電力管理法施行令抄錄

第二條　電力管理法第二條ノ規定ニ依リ日本發送電株式會社ヲシテ行ハシムル發電及送電ノ用ニ供スル電力設備ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノトス但シ電氣事業法第三十條ニ規定スル施設及特別ノ事由ニ因リ遞信大臣ノ除外スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　發電設備

（一）出力五千キロワツトヲ超過スル水力發電設備

（二）出力一萬キロワツトヲ超過スル火力發電設備

二　送電設備

（一）最大電壓十萬ヴオルト以上ニ於テ使用セラルルモノ

（二）最大電壓四萬ヴオルト以上十萬ヴオルト未滿ニ於テ使用セラルル送電設備ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ

（左記略ス）

附則第二項

出力五千キロワツトヲ超過スル水力發電設備ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノ又ハ工事中ノモノハ第二條本文ニ規定スル電力設備ヨリ之ヲ除外ス

○住宅營團法施行令

（昭和十六年四月四日公布
昭和十六年四月七日ヨリ施行）

勅令第四百號

第一章　登記

第一條　住宅營團ノ設立ノ登記ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル日ヨリ二週間以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

一　目　的

二　名　稱

三　事務所

四　資本金額及拂込資本金額

五　理事長、副理事長、理事及監事ノ氏名及住所

六　副理事長又ハ理事ノ代表權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限

七　公告ノ方法

住宅營團ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後一週間以内ニ從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二條　住宅營團ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間以内ニ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第三條　住宅營團ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

住宅營團ガ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間以内ニ第一條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

但シ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第四條　第一條第二項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條　住宅營團法第十三條ノ代理人ヲ選任シタルトキハ二週間以内ニ之ヲ置キタル事務所ノ所在地ニ於テ代理人ノ氏名、住所及代理人ヲ置キタル事務所竝ニ代理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限ヲ登記スルコトヲ要ス登記シタル事項ノ變更及代理人ノ代理權ノ消滅ニ付亦同ジ

第六條　住宅債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第二十二條ノ拂込アリタルトキ又ハ第二十四條ノ賣出期間滿了シタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ住宅債券ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ第十九條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル

事項ヲ掲グルコトヲ要ス

第四條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第七條　登記スベキ事項ニシテ厚生大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第八條　登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第九條　住宅營團ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ住宅營團登記簿ヲ備フ

第十條　設立ノ登記ハ理事長、副理事長、理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リ之ヲ爲ス

前項ノ場合ヲ除クノ外本令ニ依ル登記ハ理事長ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第十一條　設立登記ノ申請書ニハ定款、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面竝ニ理事長、副理事長、理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十二條　住宅營團法第十三條ノ代理人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ代理人ノ選任ヲ證スル書面及代理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十三條　住宅債券ノ登記ノ申請書ニハ住宅債券ノ引受ヲ證スル書面、住宅債券申込證及各住宅債券ニ付第二十二條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面又ハ第二十四條ノ賣出期間内ニ於テ賣上ゲタル住宅債券ノ總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十四條　事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他第一條第二項ニ掲グル事項ノ變更ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十五條　前條ノ規定ハ第五條ノ規定ニ依リ登記シタル事項ノ變更及住宅營團法第十三條ノ代理人ノ代理權ノ消滅竝ニ住宅債券ニ關スル登記事項ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十六條　非訟事件手續法第百四十二條乃至第百五十一條ノ六第百五十四條乃至第百五十七條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス

第二章　收用又ハ使用シタル土地又ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ處分及管理

第十七條　住宅營團ハ住宅營團法第十七條第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用シタル土地ヲ其ノ土地ノ上ニ存スル住宅又ハ施設ト共ニスルニ非ザレバ讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ズ但シ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ又ハ收用シタル土地ニ付其ノ收用ノ時期ヨリ二十年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

住宅營團法第十七條第一項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ヲ其ノ土地ノ上ニ存スル住宅又ハ施設ト共ニ住宅營團ヨリ讓渡スル場合ニ於テハ其ノ讓渡ハ土地收用法第六十六條ノ規定ノ適用ニ付其ノ土地ヲ不用ニ歸セシムルモノニ非ザルモノトス其ノ讓受ケタル者ガ住宅營團ニ其ノ土地ヲ讓渡スル場合ニ於テ其ノ讓渡ニ付亦同ジ

第十八條　前條ノ規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ニシテ住宅營團法第十七條第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用シタルモノニ之ヲ準用ス

第三章　住宅債券

第十九條　住宅債券ノ募集ニ應ゼントスル者ハ住宅債券申込證二通ニ其ノ引受クベキ住宅債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

住宅債券申込證ハ理事長之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　住宅營團ノ名稱
二　住宅債券ノ總額
三　各住宅債券ノ金額
四　住宅債券ノ利率
五　住宅債券償還ノ方法及期限
六　利息支拂ノ方法及期限
七　住宅債券發行ノ價格又ハ其ノ最低價格
八　住宅營團ノ資本金額及拂込濟資本金額
九　舊住宅債券借換ノ爲住宅營團法第十九條ノ制限ニ依ラズ住宅債券ヲ發行スルトキハ其ノ旨
十　前ニ住宅債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額

住宅債券發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ應募者ハ住宅債券申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十條　前條ノ規定ハ契約ニ依リ住宅債券ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セズ住宅債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ自ラ住宅債券ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ

第二十一條　住宅債券ノ應募總額ガ住宅債券申込證ニ記載シタル住宅債券ノ總額ニ達セザルトキモ住宅債券ヲ成立セシムル旨ヲ住宅債券申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ住宅債券ノ總額トス

第二十二條　住宅債券ノ募集ガ完了シタルトキハ理事長ハ遲滯ナク各住宅債券ニ付其ノ全額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第二十三條　住宅債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ自己ノ名ヲ以テ住宅營團ノ爲ニ第十九條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ得

住宅債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社二以上アルトキハ前項ノ行爲ハ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條　賣出ノ方法ニ依リ住宅債券ヲ發行セントスルトキハ理事長ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一　賣出期間
二　住宅債券賣出ノ價額
三　第十九條第二項第一號乃至第六號及第八號乃至第十號

ニ掲グル事項

四　第二十五條ニ規定スル事項

第二十五條　賣出期間內ニ賣上ゲタル住宅債券ノ總額ガ前條ノ規定ニ依リ公告シタル住宅債券ノ總額ニ達セザルトキハ其ノ賣上總額ヲ以テ住宅債券ノ總額トス

第二十六條　住宅債券ハ全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ之ガ證券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條　住宅債券ニハ第十九條第二項第一號乃至第六號ニ掲グル事項及證券番號ヲ記載シ理事長之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

賣出ノ方法ニ依リ發行スル住宅債券ニハ第十九條第二項第二號ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十八條　理事長ハ主タル事務所ニ住宅債券原簿ヲ備置クコトヲ要ス

債權者ハ業務時間內何時ニテモ住宅債券原簿ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條　住宅債券原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　住宅債券ノ數及番號

二　住宅債券ノ證券發行ノ年月日

三　第十九條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項

住宅債券ヲ記名ト爲シタルトキハ前項ニ掲グル事項ノ外其ノ住宅債券ノ所有者ノ氏名及住所竝ニ取得ノ年月日ヲ住宅債券原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三十條　記名住宅債券ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ住宅債券原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ證券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ住宅營團其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

記名住宅債券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ質權者ノ氏名及住所ヲ住宅債券原簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ住宅營團其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十一條　住宅債券應募者ニ對スル通知又ハ催告ハ住宅債券申込證ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所ヲ住宅營團ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル未ダ住宅債券ノ證券ノ發行ヲ爲スニ至ラザル場合ニ於テ住宅債券權利者ニ對スル通知又ハ催告ニ付亦同ジ

記名住宅債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ住宅債券原簿ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所ヲ住宅營團ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前二項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

無記名住宅債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ノ方法ニ依ルコトヲ得

第三十二條　無記名住宅債券ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト引換ニ控除金額ノ支

拂ヲ請求スルコトヲ得

第四章　積立金

第三十三條　住宅營團ハ每事業年度ニ於ケル剩餘金中ヨリ左ノ積立金ヲ積立ツルコトヲ要ス

一　普通積立金

二　特別積立金

三　職員退職給與積立金

第三十四條　普通積立金ハ資本ノ缺損ノ塡補ニ充ツ

普通積立金ノ積立ハ每事業年度ニ於テ剩餘金ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ但シ普通積立金ノ額ガ資本ノ四分ノ一ノ額ニ達シタルトキハ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第三十五條　特別積立金ハ災害等ニ因リテ生ズルコトアルベキ特別ノ損失ノ塡補ニ充ツ

特別積立金ノ積立ハ每事業年度ニ於テ剩餘金ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第三十六條　職員退職給與積立金ハ之ヲ職員退職給與金ノ資ニ充ツ

職員退職給與積立金ノ積立ハ每事業年度ニ於テ剩餘金ノ二十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第三十七條　特別積立金及職員退職給與積立金ハ評議員ニ諮問シテ之ヲ一時他ノ目的ニ使用スルコトヲ得

第五章　雜則

第三十八條　厚生大臣ハ住宅營團法第三十五條ノ規定ニ依リ事業計畫ニ付認可ヲ爲サントスル場合ニ於テ其ノ事業ガ都市計畫ニ影響スルコトアルベシト認メラルルトキハ內務大臣ニ協議スベシ

附　則

本令ハ住宅營團法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○借地法、借家法及借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

（昭和十六年三月七日公布）

勅令第二百一號

借地法、借家法及借地借家調停法ハ昭和十六年三月十日ヨリ內地ノ內未ダ之ヲ施行セザル地區及樺太ノ全地區ニ之ヲ施行ス

○昭和十六年法律第六十二號陪審法中改正法律施行期日ノ件

（昭和十六年三月二十八日公布）

勅令第三百四號

昭和十六年法律第六十二號ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○農地開發法ノ一部施行期日ノ件

（昭和十六年四月二十四日公布）

勅令第四百九十四號

農地開發法第一條乃至第四十三條及第六十二條乃至第七十七條ノ規定ハ昭和十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

○農地開發法施行令

（昭和十六年四月二十四日公布 同年五月一日ヨリ施行）

勅令第四百九十五號

第一章　農地造成改良助成金

第一條　農地開發法第二條ノ規定ニ依ル助成金ハ左ニ掲グル事業ヲ行フ者ニ對シ之ヲ交付ス

一　農業水利施設ノ新設、廢止又ハ變更（開墾、埋立若ハ干拓又ハ地目變換ニ依ル開田ニ伴フモノヲ除ク）

二　暗渠排水、床締又ハ客土

第二條　助成金ノ額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ要スル費用ノ十分ノ五以内トス

第三條　農林大臣ハ助成金ノ交付ヲ受クル者ニ對シ助成金交付ノ事業ハ之ニ因リテ生ジタル施設ニ關シ報告ヲ徵シ、當該官吏ヲシテ書類帳簿其ノ他ノ物件若ハ工事ヲ檢査セシメ又ハ監督上必要ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四條　農地開發法第三條第一項ノ規定ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ助成金ノ交付ヲ受クル者ニ對シ助成金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

一　本令ニ基キテ發スル命令又ハ本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

二　事業ノ全部又ハ一部ノ停止又ハ廢止アリタルトキ

三　助成金交付ノ事業ニ因リテ生ジタル工作物其ノ他ノ施設ヲ農業上ニ利用セザルニ至リタルトキ

四　助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

五　不正ノ手段ヲ以テ助成金ノ交付ヲ受ケタルトキ

第二章　農地開發營團

第一節　出資證券

第五條　農地開發營團ノ出資證券ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ理事長之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

一　農地開發營團ノ名稱

二　農地開發營團成立ノ年月日

三　資本金額

四　出資一口ノ金額

五　出資一口ニ付拂込ミタル金額

第二回以後ノ出資拂込ヲ爲サシメタルトキハ拂込アル毎ニ其ノ金額ヲ出資證券ニ記載スルコトヲ要ス

第六條　出資證券ハ記名式トス

第七條　出資者ノ持分ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ出資者原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ出資證券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ農地開發營團其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條　農地開發營團ハ出資者原簿ヲ主タル事務所ニ備置クコトヲ要ス

前項ノ原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　出資者ノ氏名及住所

二　各出資者ノ出資口數及出資證券ノ番號

三　出資各口ニ付拂込ミタル金額及拂込ノ年月日

四　各出資證券ノ取得ノ年月日

農地開發營團ノ出資者及債權者ハ業務時間內何時ニテモ出資者原簿ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第九條　出資者ニ對スル通知又ハ催告ハ出資者原簿ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所ヲ農地開發營團ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ出資申込人、出資引受人又ハ從前ノ出資者ニ對スル通知及催告ニ之ヲ準用ス

第二節　農地開發債券

第十條　農地開發債券ノ募集ニ應ゼントスル者ハ農地開發債券申込證二通ニ其ノ引受クベキ農地開發債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

農地開發債券申込證ハ理事長之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　農地開發營團ノ名稱

二　農地開發債券ノ總額

三　各農地開發債券ノ金額

四　農地開發債券ノ利率

五　農地開發債券償還ノ方法及期限

六　利息支拂ノ方法及期限

七　農地開發債券發行ノ價額又ハ其ノ最低價額

八　農地開發營團ノ資本金額及拂込資本金額

九　舊農地開發債券借換ノ爲農地開發法第二十四條ノ制限ニ依ラズ農地開發債券ヲ發行スルトキハ其ノ旨

十　前ニ農地開發債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額

農地開發債券發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ應募者ハ農地開發債券申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第十一條　前條ノ規定ハ契約ニ依リ農地開發債券ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セズ農地開發債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ自ラ農地開發債券ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ

第十二條　農地開發債券ノ應募總額ガ農地開發債券申込證ニ記載シタル農地開發債券ノ總額ニ達セザルトキト雖モ農地開發債券ヲ成立セシムル旨ヲ農地開發債券申込證ニ記載シ

タルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ農地開發債券ノ總額トス

第十三條　農地開發債券ノ募集ガ完了シタルトキハ理事長ハ遲滯ナク各農地開發債券ニ付其ノ全額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十四條　農地開發債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ自己ノ名ヲ以テ農地開發營團ノ爲ニ第十條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ得

第十五條　農地開發債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社二以上アルトキハ前項ノ行爲ハ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

農地開發債券ハ全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ之ガ證券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條　農地開發債券ニハ第十條第二項第一號乃至第六號ニ掲グル事項及證券番號ヲ記載シ理事長之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第十七條　農地開發營團ハ主タル事務所ニ農地開發債券原簿ヲ備置クコトヲ要ス

農地開發債券原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　農地開發債券ノ數及番號

二　證券發行ノ年月日

三　第十條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項

農地開發債券ヲ記名式ト爲シタルトキハ前項ニ掲グル事項ノ外其ノ農地開發債券ノ所有者ノ氏名及住所並ニ取得ノ年月日ヲ農地開發債券原簿ニ記載スルコトヲ要ス

農地開發營團ノ出資者及債權者ハ業務時間内何時ニテモ農地開發債券原簿ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條　記名式農地開發債券ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ農地開發債券原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ證券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ農地開發營團其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

記名式農地開發債券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ質權者ノ氏名及住所ヲ農地開發債券原簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ農地開發營團其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十九條　第九條第一項及第二項ノ規定ハ農地開發債券ノ應募者、權利者又ハ所有者ニ對スル通知及催告ニ之ヲ準用ス

無記名式農地開發債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ公告ノ方法ニ依ルコトヲ得

第二十條　無記名式農地開發債券ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト引換ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三節　登記

第二十一條　農地開發營團ノ設立ノ登記ハ出資者ノ總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

一　目的

二　名稱

三　事務所

四　資本金額

五　出資一口ノ金額

六　出資一口ニ付拂込ミタル金額

七　理事長、副理事長、理事及監事ノ氏名及住所

八　公告ノ方法

農地開發營團ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後一週間内ニ從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十二條　農地開發營團ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域內ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第二十三條　農地開發營團ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

農地開發營團ガ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間内ニ第二十一條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄區域內ニ於テ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十四條　第二十一條第二項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條　農地開發債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第十三條ノ拂込アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ農地開發債券ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ第十條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項ヲ掲グルコトヲ要ス

前條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十六條　登記スベキ事項ニシテ農林大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第二十七條　登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十八條　農地開發營團ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ農地開發營團登記簿ヲ備フ

第二十九條　設立ノ登記ヲ除クノ外本令ニ依ル登記ハ理事長

ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十條　設立登記ノ申請書ニハ定款、出資者ノ總會ノ議事錄、出資申込書其ノ他出資ノ引受ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面竝ニ理事長、副理事長、理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他第二十一條第二項ニ掲グル事項ノ變更ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十一條　農地開發債券ノ登記ノ申請書ニハ農地開發債券申込證其ノ他農地開發債券ノ引受ヲ證スル書面及各農地開發債券ニ付第十三條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ農地開發債券ニ關スル登記事項ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三十二條　非訟事件手續法第百四十二條乃至第百五十一條ノ六及第百五十四條乃至第百五十七條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス

第四節　會計

第三十三條　農地開發法第三十六條第一項ノ準備金ハ損失ノ塡補ニ充ツル場合ニ限リ農林大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ使用スルコトヲ得

第三十四條　農地開發營團ノ利益金ノ配當ハ拂込ミタル出資金額ニ對シ年百分ノ六ヲ超ユルコトヲ得ズ

附　則

第三十五條　本令ハ昭和十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條　農地開發營團ニ出資ノ申込ヲ爲サントスル者ハ出資申込書三通ニ其ノ引受クベキ口數及住所ヲ記載シ之ニ記名捺印シ設立委員ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ出資申込書ハ設立委員之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　農地開發營團ノ名稱
二　目的
三　定款認可ノ年月日
四　主タル事務所ノ所在地
五　資本金額
六　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
七　公告ノ方法

前二項ノ規定ハ政府ノ出資申込ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三十七條　出資ノ申込ニ對スル割當ニ付テハ設立委員ハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請書ニハ出資申込書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十八條　出資ノ引受ヲ爲シタル者ガ出資ノ第一回ノ拂込ヲ爲サザルトキハ設立委員ハ一定ノ期間內ニ其ノ拂込ヲ爲スベキ旨及其ノ期間內ニ之ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ出資ノ引受ヲ爲シタル者ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ通知アリタルニ拘ラズ出資ノ引受ヲ爲シタル者ガ其ノ期間內ニ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ設立委員ハ其ノ者ガ引受ケタル出資ニ付更ニ出資者ヲ募集スベシ

第三十九條　出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各出資者ノ出資口數、拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日ヲ記載シタル書面竝ニ之ニ關スル證憑書類ヲ提出シ農林大臣ノ檢査ヲ受クベシ

第四十條　前條ノ檢査終リタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資者ノ總會ヲ招集シ農地開發營團ノ設立ニ關スル事項ヲ報告スベシ

第四十一條　總會ヲ招集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ各出資者ニ通知スルコトヲ要ス

第四十二條　總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ヅベシ

第四十三條　農地開發營團理事長設立委員ヨリ其ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ヅベシ

○蠶絲業統制法ノ一部施行期日ノ件

（昭和十六年四月十八日公布）

勅令第四百六十二號

蠶絲業統制法第一條乃至第三條、第七條、第八條、第十條乃至第十二條、第十八條、第二十條乃至第四十二條、第四十六條第二號第三號、第四十八條、第四十九條、第五十二條乃至第六十五條及第六十八條乃至第七十條ノ規定ハ昭和十六年四月二十一日ヨリ之ヲ施行シ同法第四十三條、第四十五條、第五十條、第五十一條及第七十一條ノ規定ハ同法第三條第三項第十一條、第十二條、第十八條第一項、第二十條又ハ第六十八條ノ規定ニ關係アル範圍內ニ於テ同日ヨリ之ヲ施行ス

○蠶絲業統制法施行令

（昭和十六年四月十九日公布、即日施行、附則參照）

勅令第四百七十一號

第一條　蠶絲業統制法第三條第二項ノ規定ニ依リ蠶絲業者ノ團體左ノ通定ム

一　全國蠶種業組合聯合會及蠶種業組合
二　全國養蠶業組合聯合會、道府縣養蠶業組合聯合會、養蠶業組合及養蠶實行組合
三　全國產業組合製絲組合聯合會及產業組合製絲組合
四　全國製絲業組合聯合會及製絲組合
五　蠶種又ハ生絲ノ生產ヲ業トスル者ノ組織スル蠶絲共同施設組合

第二條　主務大臣ハ前條ニ掲グル團體ニ對シ命令ノ定ムル所

ニ依リ左ニ掲グル事項ニ付蠶絲業統制法第三條第二項ノ統制ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

一 蠶絲ノ生産數量ノ最高限度ノ指定

二 蠶絲ノ品種ノ指定又ハ制限

三 蠶絲ノ生産施設ノ制限其ノ他第一號ノ指定ニ伴ヒ必要ナル制限

主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第三條 道府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ繭ノ品位ニ付檢定ヲ行フベシ

前項ノ規定ニ依ル繭ノ檢定ニ關シ必要ナル費用ハ道府縣ノ負擔トス但シ國庫ハ豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ檢定施設ニ要スル經費ノ二分ノ一以内ヲ補助スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依ル國庫補助ハ道府縣ガ繭ノ檢定ヲ行フニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ創設ノ爲ニ支出シタル額ヨリ其ノ支出ニ充ツベキ寄附金其ノ他ノ收入ヲ控除シタル精算額ニ對シ之ヲ爲ス

道府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ規定ニ依ル繭ノ品位ノ檢定ニ關シ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ蠶絲ノ生産ヲ業トスル者ニ對シ主務大臣ノ定ムル蠶絲ノ品種以外ノモノノ生産ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

第五條 主務大臣ハ蠶絲ノ取扱ヲ業トスル者ニ對シ其ノ爲ス蠶絲ノ賣渡ニ關シ其ノ數量、時期、方法、相手方等ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第六條 地方長官ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ玉絲製造業者又ハ座繰生絲製造業者（蠶絲共同施設組合ノ組合員タルモノヲ除ク）ニ對シ其ノ生産スル玉絲又ハ座繰生絲ノ數量ノ最高限度ノ指定其ノ他生産數量ノ制限ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル業ヲ營マントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一 五釜以上ノ製造設備ニ依ル玉絲製造業（業トシテ委託シテ玉絲ノ製造ヲ爲スモノヲ含ム）

二 五釜以上ノ製造設備ニ依ル座繰生絲製造業（業トシテ委託シテ座繰生絲ノ製造ヲ爲スモノヲ含ム）

第八條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶絲業統制法第二十條ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三條ノ規定ハ蠶絲業統制法第十六條第三項ノ規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

絲價安定施設組合ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

蠶絲統制法第六十九條第一項ノ規定ニ依リ絲價安定施設組合解散シタルトキハ理事長ヲ以テ其ノ清算人トス

清算人缺ケタルトキハ農林大臣之ヲ選任ス

清算人ハ絲價安定施設組合ヲ表シ清算代ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財産處分ニ付テハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

農林大臣必要ト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命ジ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

絲價安定施設組合ノ清算結了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ヅベシ

○蠶絲委員會官制

（昭和十六年四月二十二日公布
同日施行、附則參照）

勅令第四百八十一號

第一條 蠶絲委員會ハ農林大臣ノ監督ニ屬シ蠶絲業統制法第三條第一項、第七條第一項、第十二條及第十四條第一項竝ニ絲價安定施設法第十二條及第三十條第一項ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ前項ノ外關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ蠶絲業ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條 委員會ハ會長一人及委員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ農林大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ農林大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

學識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ農林大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク農林大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク農林大臣之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

絲價安定委員會官制及生絲需要增進調査會官制ハ之ヲ廢止ス

○昭和十六年法律第六十九號大正二年法律第九號中改正法律施行期日ノ件

（昭和十六年四月九日公布）

勅令第四百十一號

昭和十六年法律第六十九號ハ昭和十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

大正二年四月七日公布　法律第九號ハ裁判所管轄區域ニ關スル件ナリ

○燃料局官制中改正ノ件

（昭和十六年四月十日公布）

勅令第四百十四號

燃料局官制中左ノ通改正ス

第二條中「事務官　專任十五人　奏任内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得」ヲ「事務官　專任十四人　奏任内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得」ニ、「技師　專任十三人」ヲ「技師　專任十二人」ニ、「技手　專任二十一人」ヲ「技手　專任十七人」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○燃料研究所官制中改正ノ件

（昭和十六年四月十日公布）

勅令第四百十五號

燃料研究所官制中左ノ通改正ス

第二條第一項中「技手　專任二十八人」ヲ「技手　專任二十七人」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○船舶保護法施行期日ノ件

（昭和十六年四月十五日公布）

勅令第四百五十七號

船舶保護法ハ昭和十六年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○關東州及南洋群島船舶保護令

（昭和十六年四月十五日公布　同年四月二十日施行）

勅令第四百五十八號

關東州及南洋群島ニ於ケル船舶保護ニ關シテハ船舶保護法ニ依ル但シ同法第三條第二項中關係各大臣（朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ヲ含ム）トアルハ關東州ニ在リテハ滿洲國駐箚特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ同法第十一條中道府縣、市町村トアルハ關東州ニ在リテハ關東州地方費、市トス

附　則

本令ハ船舶保護法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臨時利得税法施行規則中改正ノ件

（昭和十六年三月二十八日公布　同年四月一日ヨリ施行）

勅令第二百九十二號

臨時利得税法施行規則中左ノ通改正ス

第二十五條中「臺灣」ノ下ニ「、關東州」ヲ加フ

附　則

本令ハ昭和十六年法律第七十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十年三月三十日公布　勅令第三十七號臨時利得税法施行規則抄錄

第二十五條　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル個人又ハ臨時利得税法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セズシテ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ左ニ揭グル場合ヲ除クノ外臨時利得税ヲ課セズ

一　臨時利得税法施行地ニ住所ヲ有スル者利得金額決定後朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル利得金額決定前臨時利得税法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三　臨時利得税法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生ジタルトキ

○關東州臨時利得税令改正ノ件

（昭和十六年三月二十八日公布　四月一日ヨリ施行、附則參照）

勅令第二百九十七號

關東州臨時利得税令

第一條　關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ臨時利得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　前條ノ規定ニ該當セザル者關東州ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ利得ニ付テノミ臨時利得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條　臨時利得税ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

一　法人ノ利得

二　滿洲國駐箚特命全權大使ノ定ムル營業ニ因ル個人ノ利得（營業利得ト稱ス以下同ジ）

三　船舶（製造中ノ船舶ヲ含ム）又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル個人ノ利得（讓渡利得ト稱ス以下同ジ）

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得トス

第五條　法人ノ現事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ相互保險會社及會員組

織ノ取引所ニ在リテハ現事業年度ノ剰餘金ニ依ル

法人ガ現事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ第一種所得税及臨時利得税竝ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得税ニシテ關東州所得税令第二十五條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ第一種ノ所得ニ對スル所得税額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

法人ノ現事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ大使ノ定ムルモノハ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前二項ノ規定ハ相互保險會社又ハ會員組織ノ取引所ノ剰餘金ノ計算ニ付之ヲ準用ス

關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ利益ハ關東州ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前四項ノ規定ニ準ジ之ヲ計算ス

第六條　法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第七條　法人ノ現事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ醵金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ大使ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條　本令ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

第一種所得税及臨時利得税トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第九條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ利得ニ付臨時利得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第十條　個人ノ利益ガ昭和十三年以前二年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ營業利得トス

第十一條　前條ノ規定ニ依リ營業利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和十三年以前二年ノ平均利益ガ七千圓又ハ現年ノ利益ノ三分ノ一ニ相當スル金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ニ達セザルトキハ其ノ多額ナル一方ノ金額ヲ以テ平均利益トス

第十二條　個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費（收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子ヲ含ム以下同ジ）ヲ控除シタル金額ニ依ル

所得税及臨時利得税ハ前項ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス

營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ營業利得ハ相續人ノ營業利得ト看做ス

第十三條　營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

第十四條　個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ營業利得ニ對スル臨時利得税ヲ課セズ

個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ大使之ヲ定ム

第十五條　讓渡利益ハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル收入金額ヨリ取得價額、設備費、改良費及讓渡ニ關スル必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十二年六月三十日以前ニ取得シタルモノニ付テハ同日ニ於ケル價額ヲ以テ前項ノ取得價格トシ同日後ニ爲シタル設備又ハ改良ニ要シタル費用ノミヲ以テ前項ノ設備費又ハ改良費トス

前二項ノ計算ニ關シテハ相續、贈與又ハ遺贈ニ因リ取得シタルモノハ相續人、受贈者又ハ受遺者ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シ讓渡後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ爲シタル讓渡ハ之ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス

前三項ニ定ムルモノノ外讓渡利得ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ大使之ヲ定ム

第十六條　讓渡利得ニ付テハ其ノ利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

第十七條　營利ヲ目的トセザル法人ニシテ關東州所得税令其ノ他ノ命令ニ依リ所得税ヲ課セラレザルモノニハ臨時利得税ヲ課セズ

第十八條　個人ノ自己ノ收獲シタル農産物、林産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造ノ利益ニ付テハ本令ヲ適用セズ但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ノ利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條　船舶ノ讓渡ニ因ル利益ニシテ第十條ノ個人ノ利益ニ屬スルモノ及昭和十六年一月一日以後ニ於テ設定セラレタル鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル權利ニシテ大使ノ定ムルモノノ讓渡ニ付テハ本令中讓渡ノ利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

第二十條　法人ノ臨時利得税ハ法人ノ利得ヲ左ノ部分ニ區分シ各部分ニ付左ノ税率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス

一　利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得　利得金額ノ百分ノ十六

二　利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得　利得金額ノ百分ノ三十

三　利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超ユル金額ヨリ成ル部分ノ利得　利得金額ノ百分ノ四十五

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限リ前項ニ規定スル稅率百分ノ十六ハ之ヲ百分ノ六トシ同百分ノ三十八ハ之ヲ百分ノ二十トシ同百分ノ四十五ハ之ヲ百分ノ三十五トス

第二十一條　前條ノ規定ニ依リ現事業年度ノ資本金額ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年以內ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合トス但シ其ノ割合ガ年百分ノ十未滿ナルトキ又ハ法人ノ第一事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ終了シタルトキハ其ノ割合ヲ年百分ノ十トシ其ノ割合ガ年百分ノ二十ヲ超ユルトキハ之ヲ年百分ノ二十トス

第五條（第三項ヲ除ク）乃至第七條及第八條第一項ノ規定ハ前項ノ平均利益及平均資本金額算出ノ基礎タル昭和十一年十二月三十一日以前三年以內ニ終了シタル各事業年度ノ利益及資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十二條　前條第一項ノ規定ニ依ル既往事業年度ノ平均利益率ガ年百分ノ十ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中ニ增加資本金額アルトキハ同項ノ規定ニ拘ラズ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ト增加資本金額以外ノ部分ニ同項ノ規定ニ依ル既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ現事業年度ノ資本金額ニ對スル割合ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益率トス

前項ノ增加資本金額トハ現事業年度ノ資本金額ガ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額又ハ同日以前三年以內ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均資本金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過額ヲ謂フ

昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ同日ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ醵金及積立金額ニ依リ之ヲ計算ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十三條　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ昭和十一年十二月三十一日以前三年以內ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益及平均資本金額竝ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ大使ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第二十四條　個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

營業利得　利得金額ノ百分ノ二十

讓渡利得　利得金額ノ百分ノ十六

第二十五條　納稅義務アル法人ハ大使ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第二十六條　營業利得ニ付納稅義務アル個人ハ大使ノ定ムル所ニ依リ每年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

讓渡利得ニ付納稅義務アル個人ハ大使ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第二十七條　法人ノ利得金額ハ第二十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ營業利得ノ金額ハ關東州所得稅令ノ所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後營業利得ノ金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年以後ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後營業利得ニ付納稅義務アルコトヲ申出デ又ハ利得金額ノ增加アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定ス

讓渡利得金額ハ前條第二項ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第二十八條　關東州所得稅令第三十八條ノ規定ハ營業利得金額ノ決定ニ付之ヲ準用ス

第二十九條　第二十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第三十條　納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル利得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第三十一條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ關東州所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

關東州所得稅令第四十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　法人ノ利得ニ付テハ事業年度每ニ臨時利得稅ヲ徵收ス

營業利得ニ付テハ臨時利得稅ノ年額ヲ三分シ左ノ三期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ關東州外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期　其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三期　翌年二月一日ヨリ末日限

讓渡利得ニ付テハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ノ際臨時利得稅ヲ徵收ス

第三十三條　稅務署長若ハ民政署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ營業ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

第三十四條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長若ハ民政署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ營業利得ニ付臨時利得稅ヲ逋脫シタル者ノ利得金額ハ第二十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第三十五條　第三十三條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十六條　臨時利得稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　大正十一年勅令第二百號第一條ノ規定ハ第三十五條又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三十八條　關東州所得稅令第三十一條第四項、第四十二條第四十三條第二項、第四十八條、第五十三條及第五十五條乃至第五十七條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス

第三十九條　臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ利得ニ付テハ臨時利得稅ヲ課セズ

第九條ノ規定ハ臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル場合ニ付之ヲ準用ス

臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ課セズ

第四十條　關東州所得稅令第二十三條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除セラルル所得ニ付テハ本令ヲ適用セズ

第四十一條　本令ニ於テハ法人ニ非ザル社團モ亦之ヲ法人ト看做ス

前項ノ社團其ノ財產ヲ以テ臨時利得稅ヲ完納スルコト能ハザルトキハ其ノ稅金ニ付社員連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第四十二條　市、會其ノ他ノ公共團體ハ臨時利得稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附　則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ニ非ザル社團ノ利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十六年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適用ス

營業利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十六年分ヨリ本令ヲ適用ス

讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十六年一月一日以後ノ讓渡ニ因ル利得ニ對シ本令ヲ適用ス

本令ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リ、營業利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年分限リ、讓渡利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ノ讓渡ニ因ル利得ニ對スル分限リトス

第二十六條ノ改正規定中三月十五日トアルハ昭和十六年分ニ限リ四月二十五日トス

昭和十五年一月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ爲シタルニ非ザル營業ニ因ル個人ノ利得ニ付テハ政府ハ大使ノ定ムル所ニ依リ昭和十六年分ニ限リ臨時利得稅ヲ免除スルコトヲ得

〔參　照〕

大正十一年四月十五日公布　勅令第二百號ハ關東州又ハ南洋群島ニ於ケル租稅ニ關シ事犯アリタルトキノ處罰ニ關スル件ナリ

○樺太臨時利得稅令中改正ノ件

（昭和十六年三月二十八日公布 同年四月一日ヨリ施行）

勅令第三百號

樺太臨時利得稅令中左ノ通改正ス

第二十六號第二項中「又ハ臺灣」ヲ「、臺灣又ハ關東州」ニ改ム

附　則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十年四月十三日公布　勅令第八十四號樺太臨時利得稅令抄錄

第二十六條第二項

內地朝鮮又ハ臺灣ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ課セズ

○相續稅法施行規則中改正ノ件

（昭和十六年四月八日公布）

勅令第四百十號

相續稅法施行規則中左ノ通改正ス

第二十二條ノ二ヲ第二十二條ノ八トシ第二十二條ノ三ヲ第二十二條ノ九トス

第二十二條ノ二　相續稅法第十七條ノ二ノ規定ニ依リ物納ヲ求ムルコトヲ得ヘキ相續稅額ハ當該相續財產タル不動產ノ價額ニ對スル分ノ相續稅額ヲ超ユルコトヲ得ス

相續財產タル不動產中ニ前項ノ相續稅額ヲ納付スルニ適當ナル價額ノモノナキトキハ稅務署長ハ當該稅額ヲ超ユル相續稅額ニ付テモ物納ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條ノ三　相續稅法第十七條ノ二ノ規定ニ依リ相續稅ノ物納ニ充ツルコトヲ得ヘキ不動產ハ相續稅法施行地ニ在ルモノニ限ル

第二十二條ノ四　相續稅法第十七條ノ二ノ規定ニ依リ物納ニ

充ツル場合ニ於ケル不動産ノ收納價額ハ相續開始當時ノ現況ニ依ル但シ相續開始後不動産ノ情況ニ著シキ變化ヲ生シタルトキハ税務署長ハ收納ノ時ノ現況ニ依リ其ノ價額ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條ノ五　相續税ノ物納ヲ求メムトスル者ハ物納スヘキ相續税額及物納ニ充テムトスル不動産ヲ記シ相續税法第十七條ノ二第二項ノ期間內ニ所轄税務署ニ申請スヘシ

第二十二條ノ六　税務署長相續税法第十七條ノ二第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リ納税義務者ノ物納ニ充テムトスル不動産ノ變換ヲ命シ又ハ物納ヲ許可セサリシトキハ其ノ旨ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

納税義務者物納ニ充テムトスル不動産ノ變換ヲ命セラレタル場合ニ於テ他ノ不動産ヲ以テ物納ニ充テムトスルトキハ當該不動産ヲ記シ前項ノ通知ヲ受ケタル後二十日以內ニ所轄税務署ニ申出ツヘシ

納税義務者前項ノ期間內ニ前項ノ申出ヲ爲サザリシトキハ物納ノ申請ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十二條ノ七　相續税法第十七條ノ二ノ規定ニ依リ物納ノ許可ヲ受ケタル相續税額ハ物納ニ充ツベキ不動産ノ所有權移轉ノ登記カ完了シタル時ニ於テ納付アリタルモノトス

附　則

本令ハ昭和十六年四月一日以後開始シタル相續ニ付之ヲ適用ス

○無盡業法第二十一條ノ八ノ規定ニ依ル登記ニ關スル件

（昭和十六年三月三十一日公布）

勅令第三百六十三號

無盡業法第二十一條ノ八ノ規定ニ依ル登記ハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間以內ニ、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ハ委託無盡會社ノ總取締役及總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　管理契約書

二　管理契約ニ關スル株主總會ノ議事錄

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和六年勅令第百五十九號無盡業法第四十二條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ヲ地方長官ヲシテ行ハシムルノ改正ノ件

（昭和十六年三月三十一日公布）

勅令第三百六十四號

無盡業法第四十二條ノ規定ニ依リ左ニ掲グル事項ハ無盡會社又ハ無盡管理會社ノ本店ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲシテ之ヲ行ハシム但シ二道府縣ノ區域ノ全部又ハ三道府縣以上ニ亙ル區域ヲ營業區域トスル無盡會社又ハ無盡管理會社ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　無盡業法第八條及第十九條ノ規定ニ依ル認可ヲ爲スコト

二　無盡業法第二十二條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サシメ又ハ書類帳簿ヲ提出セシムルコト

三　無盡業法第二十三條ノ規定ニ依ル檢査ヲ爲スコト

地方長官前項第一號ノ規定ニ依リ他ノ地方長官ノ管轄スル道府縣ノ區域ニ於テ無盡會社ガ其ノ營業區域ヲ定メ、營業所若ハ代理店ヲ設置シ又ハ營業所ノ位置ヲ變更セントスル場合ニ於テ無盡業法第八條第一號、第三號又ハ第四號ノ認可ヲ爲サントスルトキハ豫メ當該地方長官ニ協議スベシ

第一項第二號及第三號ニ掲グル事項ハ事宜ニ依リ主務大臣ニ於テ之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○外國爲替管理委員會官制中改正ノ件

（昭和十六年四月二十二日公布　即日施行）

勅令第四百七十三號

外國爲替管理委員會官制中左ノ通改正ス

第二條中「十五人以內」ヲ「二十人以內」ニ改ム

第四條　委員及臨時委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　關係各廳高等官

二　學識經驗アル者

前項ノ委員及臨時委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

委員ノ任期ハ二年トシ臨時委員ノ任期ハ一年トス

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ大藏大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條　大藏大臣ハ必要ニ依リ委員會ニ部會ヲ置キ其ノ所掌事項ヲ分掌セシムルコトヲ得

部會ニ部會長ヲ置ク會長又ハ會長ノ指名スル委員之ニ當ル

部會ニ屬スベキ委員及臨時委員ハ會長之ヲ指名ス

委員會ハ其ノ定ムル所ニ依リ部會ノ決議ヲ以テ委員會ノ決議ト爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外貨評價委員會官制ハ之ヲ廢止ス

〔參　照〕

昭和八年五月二十五日公布　勅令第百三十五號外國爲替管理委員會官制抄錄

第二條第一項

委員會ハ會長一人及委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　委員ハ左ニ揭グル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　關係各廳高等官

二　日本銀行總裁及同副總裁

前項第一號ニ揭グル者ヲ以テ充ツル委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條　臨時委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ左ニ揭グル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

一　關係各廳高等官

二　學識經驗アル者

前項第二號ニ揭グル者ヲ以テ充ツル委員ノ任期ハ二年トス

第六條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

○外國爲替管理法第五條第二項但書ノ規定ニ依リ關稅法ニ定ムル職務ヲ行フ官吏ヲ定ムルノ件

（昭和十六年四月二十二日公布）

勅令第四百八十三號

外國爲替管理法第五條第二項ノ規定ニ於テ準用スル關稅法中稅關官吏ニ屬スル職務ヲ行フベキ官吏ハ爲替管理官、爲替管理官補及稅關官吏トシ稅關長ノ職務ヲ行フベキ官吏ハ稅關長トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十六年四月十二日公布　法律第八十三號外國爲替管理法抄錄

第五條第二項

關稅法第八十四條乃至第九十三條ノ規定ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ付之ヲ準用ス但シ同法ニ定ムル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

省　令

○軍機保護法施行規則中改正

（昭和十六年三月三十一日公布即日施行）

海軍省令第八號

軍機保護法施行規則中左ノ通改正ス

第五條第四號中「撮影」ヲ「撮影若ハ模寫」ニ改メ但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ被寫體ノ存在スル地表面又ハ水面ヨリ高サ二〇メートル以下ノ場所ヨリノ撮影若ハ模寫又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ除ク

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

昭和十二年十月七日　海軍省令第二十八號軍機保護法施行規則抄錄

第五條第一項

軍機保護法第十二條第一項ノ規定ニ依リ左ニ揭グル行爲ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第一號又ハ第二號ニ揭グル行爲ニ付テハ海軍大臣ノ、第三號又ハ第四號ニ揭グル行爲ニ付テハ當該鎭守府司令長官又ハ要港部司令官ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

四　軍港、要港又ハ防禦港及第一號(一)乃至(十)(十二)乃至(十五)並ニ第二號(一)ニ揭グル區中、高所ヨリノ撮影又ハ其ノ複寫若ハ複製但シ被寫體ヨリノ高サ二十米以下ノ場合ヲ除ク

○昭和十六年法律第七十號附則第二項及第三項ノ規定ニ依ル事業ノ範圍ニ關スル件

（昭和十六年三月十五日公布同年三月十九日施行）

商工省令第十七號

昭和十六年法律第七十號施行ノ際現ニ從前ノ工作機械製造事業法第三條第一項但書ノ規定ニ該當スル工作機械製造事業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ガ同法律附則第二項ノ規定ニ依リ營ムコトヲ得ベキ事業ノ範圍ニシテ同法律施行ノ際現ニ建設工事中ノ設備ニ係ルモノハ同法律公布ノ際現ニ建設工事中ノ設備ニ係ルモノニ限ル

從前ノ工作機械製造事業法第三條第一項但書ノ規定ニ該當スル工作機械製造事業ヲ營ム爲昭和十六年法律第七十號施行ノ際現ニ其ノ設備ノ建設工事中ニ在ル者又ハ其ノ設備ヲ承繼シタル者ガ同法律附則第三項ノ規定ニ依リ營ムコトヲ得ベキ事業ノ範圍ハ同法律公布ノ際現ニ建設工事中ノ設備ニ係ルモノ

ニ限ル

附　則

本令ハ昭和十六年法律第七十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十六年法律第五十四號治安維持法改正法律施行期日ノ件

（昭和十六年五月十三日公布）

勅令第五百五十三號

昭和十六年法律第五十四號ハ昭和十六年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

○關東州治安維持令

（昭和十六年五月十三日公布 同十五年五月十五日ヨリ施行）

勅令第五百五十五號

關東州治安維持令

關東州ニ於ケル治安維持ニ關シテハ治安維持法第三十二條、第三十七條、第三十八條及第三章ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法中刑事訴訟法トアルハ關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法、本法トアルハ本令、司法大臣トアルハ滿洲國駐箚特命全權大使、檢事長トアルハ高等法院檢察官長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢察官、豫審判事トアルハ豫審判官、檢事トアルハ檢察官、裁判所書記トアルハ法院書記トス

附　則

本令ハ昭和十六年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前關東州裁判事務取扱令第七十二條乃至第七十五條ノ規定ニ依リ爲シタル捜査手續ハ本令施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ捜査手續ニシテ本令ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

○帝國ガ領事裁判權ヲ行使スル地域ニ於ケル國防保安法及治安維持法ノ適用ノ特例ニ關スル件

（昭和十六年五月十六日公布）

勅令第五百九十五號

帝國ガ領事裁判權ヲ行使スル地域ニ在リテハ國防保安法第二章及治安維持法第二章中司法大臣トアルハ外務大臣トシ檢事長又ハ檢事正トアルハ總領事館又ハ領事館ノ長タル領事官トス

前項ノ地域ニ在リテハ治安維持法第三章ノ規定ハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十五年法律第百二號鑛業法中改正法律ノ一部施行期日ノ件

（昭和十六年五月十三日公布）

勅令第五百八十三號

昭和十五年法律第百二號ハ第十條ノ改正規定ヲ除クノ外昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○鑛業登錄令中改正ノ件

（昭和十六年五月十三日公布）

勅令第五百八十四號

鑛業登錄令中左ノ通改正ス

第十一條　判決若ハ相續其ノ他ノ一般承繼ニ因ル登錄又ハ死亡ニ因ル共同鑛業權者ノ脱退ノ登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十二條中「其ノ代表者改定」ヲ「其ノ代表者變更」ニ改ム

第二十八條中「死亡、」ヲ削ル

附　則

本令ハ昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

明治三十八年六月二十日公布　勅令第百八十三號鑛業登錄令抄錄

第十一條　判決又ハ相續其ノ他ノ一般承繼ニ因ル登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十二條　登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登錄又ハ共同鑛業權者脱退及其ノ代表者改定ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第二十八條　死亡、破産又ハ禁治産ニ因ル共同鑛業權者脱退ノ登錄ハ登錄權利者又ハ登錄義務者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

○昭和十五年法律第百二號附則第十條ノ規定ニ依リ試掘權ノ存續期間ヲ延長スル場合ノ登錄ニ關スル件

（昭和十六年五月十三日公布）

勅令第五百八十五號

商工大臣ハ昭和十五年法律第百二號附則第十條ノ規定ニ依リ試掘權ノ存續期間ヲ延長スルトキハ鑛業法第十九條ノ規定ニ依ル登錄ヲ命ズルコトヲ要ス

附　則

本令ハ昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參　照〕

明治三十八年三月八日公布　法律第四十五號鑛業法抄錄

第十九條　鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦

法付行ノ日ヨリ四年トス但シ主務大臣已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ石油ヲ目的トスル試掘權ニ施テハ四年以内、石油以外ノ鑛物ヲ目的トスル試掘權ニ施テハ二年以内之ヲ延長スルコトヲ得

同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十五年四月八日公布法律第百二號鑛業法中改正抄錄

附則第十條　本法施行ノ際現ニ存スル試掘權ノ存續期間ハ本法施行ノ日ヨリ四年トス但シ主務大臣已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ石油ヲ目的トスル試掘權ニ付テハ四年以內、石油以外ノ鑛物ヲ目的トスル試掘權ニ付テハ二年以內之ヲ延長スルコトヲ得

○昭和十五年法律第百三號砂鑛法中改正法律施行期日ノ件

（昭和十六年五月十三日公布）

勅令第百八十六號

昭和十五年法律第百三號ハ昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

省令

司法省令第四十七號

（昭和十六年五月九日公布 附則參照）

辯護士指定規程

第一條　國防保安法第二十九條及治安維持法第二十九條ノ規定ニ依ル辯護士ノ指定ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　司法大臣ハ十年以上辯護士タル者ノ中ヨリ每年豫メ相當數ノ辯護士ヲ指定ス但シ豫メ指定ヲ欲セザル旨ノ申出アリタル場合ニ於テ其ノ理由アリト認ムルトキハ之ヲ指定セズ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ指定セズ

一、國防保安法第十六條ニ規定スル事件又ハ治安維持法違反事件ニ付罰金刑ニ處セラレ、刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ若ハ起訴猶豫處分ニ付セラレタル者又ハ公訴ノ提起ヲ受ケテ其ノ裁判確定セザル者

二、前號ニ規定スル事件以外ノ刑事事件ニ付前號ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ指定ヲ適當ナラズト認ムルモノ

三、思想、經歷其ノ他ノ事由ニ因リ指定ヲ適當ナラズト認ムル者

第四條　指定セラレタル辯護士ニシテ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ指定ハ之ヲ取消ス

第五條　指定ノ效力ハ一年トス但シ選任セラレタル事件ニ付テハ其ノ確定ノ時迄指定ノ效力ヲ有ス

第六條　指定ヲ爲シタルトキハ本人ニ其ノ旨ヲ通知シ官報ヲ以テ之ヲ公告ス指定ノ取消ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第七條　司法大臣ハ指定辯護士名簿ヲ調製シ之ヲ司法省ニ備フ

指定辯護士名簿ニハ辯護士ノ氏名、住所、生年月日、登錄年月日、登錄番號、所屬辯護士會及事務所其ノ他必要ト認ムル事項ヲ記載ス

附　則

本令中國防保安法ニ關スル部分ハ同法施行ノ日ヨリ、治安維持法ニ關スル部分ハ治安維持法改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依ル指定ハ昭和十六年ニ限リ施行後之ヲ行フコトアルベシ

本令ニ依リ昭和十六年ニ於テ爲ス指定ハ昭和十七年十二月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス

司法省令第四十六號

（昭和十六年五月七日公布 附則參照）

大正十三年司法省令第十一號中左ノ通改正ス

第一條中第三號ヲ第五號トシ第二號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

三、國防保安法第二十五條第二項又ハ第二十六條第二項ノ規定ニ依リ檢事又ハ檢事ノ命令ヲ受ケ司法警察官若ハ其職務ヲ行フ者ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ飜譯人

四、治安維持法第二十六條第二項又ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依リ檢事又ハ檢事ノ命令ヲ受ケ司法警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ飜譯人

第三條第二項中「第二號第三號」ヲ「第二號乃至第五號」ニ改ム

附　則

本令中國防保安法ニ關スル部分ハ同法施行ノ日ヨリ治安維持法ニ關スル部分ハ治安維持法改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】

大正十三年五月二十九日司法省令第十一號（刑事事件ニ關シ判事又ハ檢事ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ飜譯人等ニ旅費、日當及止宿料給與ノ件）抄錄

第一條　左ニ揭クル者ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與スルコトヲ得（左記略ス）

第三條　刑事訴訟費用法第二條、第三條第一項、第四條及第五條ハ前二條ニ揭クル給與ノ金額ニ付之ヲ準用ス

前項ノ金額ハ第一條第一號ノ場合ニ在リテハ豫審判事又ハ區裁判所判事、第二號、第三號ノ場合ニ在リテハ檢事之ヲ定ム

昭和十六年六月二十日印刷
昭和十六年六月二十八日發行

㊕定價一圓五十錢
送料十錢

第七十六帝國議會通過
新法律並施行令

不許複製

發行兼印刷兼編輯人　森眞一郎

印刷所　東京市神田區三崎町二丁目一六番地
東京印刷製本株式會社

發行所　東京市麴町區丸ノ內三丁目十二番地
株式會社法律新報社出版部
振替東京六七三三二番
電話丸ノ內(23)〇七七一番

配給元　東京市神田區淡路町二丁目九番地
日本出版配給株式會社
電話神田(25)自四七一〇番至四七一三番

トコ11N-85

法律新報

毎月三回五ノ日發行
一部二十錢

司法部、裁判所、檢事局ノ動向詳報
全國辯護士會動靜
研究發表、法曹人紹介、隨筆
判事、檢事、辯護士座談會
全國各控訴院、地方裁判所
區裁判所、行政裁判所等
の判決例每號多數登載！
朝野法曹人必讀の旬刊誌！

大審院判決全集

毎月三回五ノ日發行
一部三十錢

大審院の法令の解釋
運用を知るの指針！
經濟統制事犯判決例・每號
多數登載！

東京市麴町區丸之内三丁目十二番地
仲三號館

發行所 法律新報社

振替東京六七三三二番
電話丸ノ内(23)〇七七一番